

第2章

高齢者を取り巻く状況

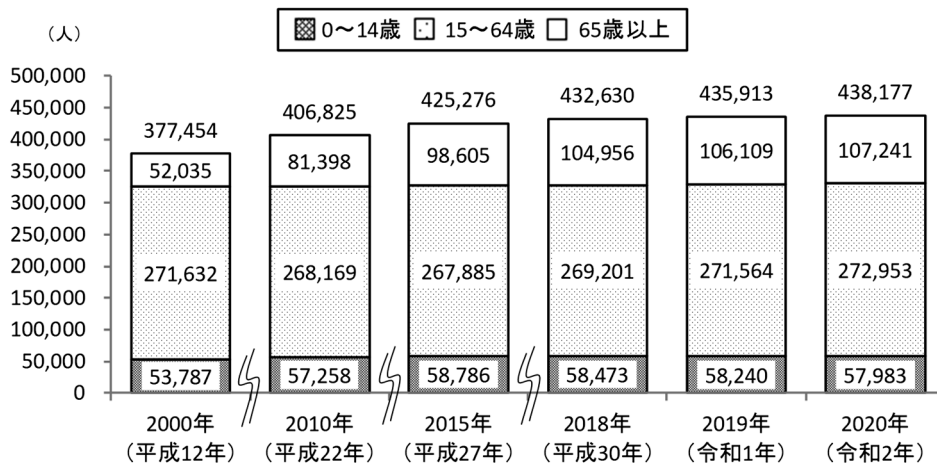
1. 高齢化の状況

(1) 藤沢市の総人口の動向と今後の見通し

○ 総人口の動向 [住民基本台帳に基づく実績]

住民基本台帳によれば、本市の総人口は、2020年（令和2年）10月1日現在、438,177人となっており、年々増加傾向にあります〔図表2-1〕。

図表2-1 藤沢市の総人口の推移



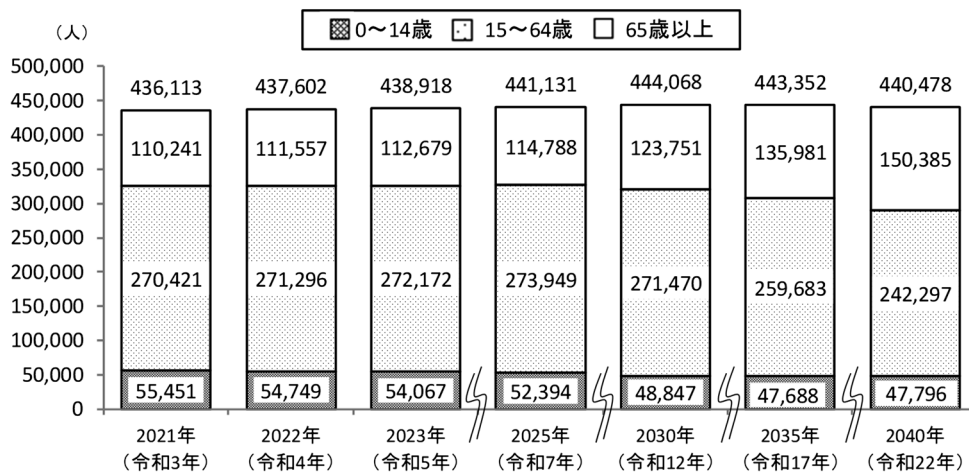
※住民基本台帳に基づく人口。各年10月1日現在。

※2012年（平成24年）7月に外国人登録法が廃止されたことに伴い、2012年（平成24年）以降は外国籍人口を含む。

○ 総人口の今後の見通し [国勢調査に基づく推計]

国勢調査に基づく推計によれば、本市の総人口の今後の見通しは、2030年（令和12年）に444,068人でピークを迎え、その後は減少に転じる見込みです〔図表2-2〕。

図表2-2 藤沢市の総人口の将来の見通し



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用（平成27年国勢調査に基づく推計値）。各年10月1日現在。

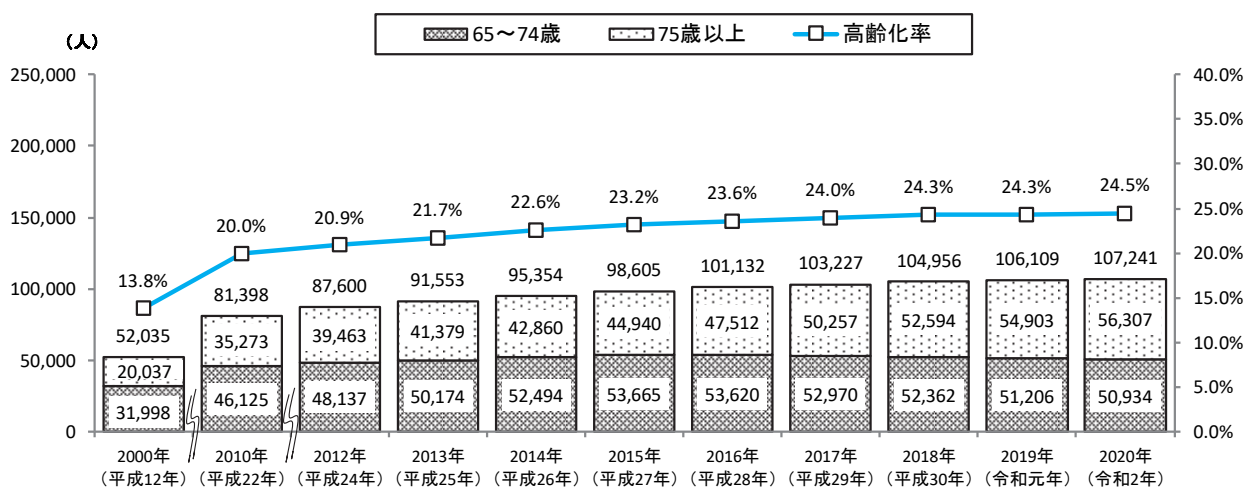
(2) 高齢化の動向と今後の見通し

○ 高齢化の動向 [住民基本台帳に基づく実績]

住民基本台帳によれば、本市の高齢者人口（65歳以上人口）は年々増加傾向にあり、2013年（平成25年）には高齢化率が21%を超え、超高齢社会といわれる都市となりました。

2020年（令和2年）10月1日現在、高齢者人口は107,241人、高齢化率は24.5%で、約4人に1人が高齢者となっています〔図表2-3〕。

図表2-3 藤沢市の高齢者人口の推移



※住民基本台帳に基づく人口。各年10月1日現在。

※2012年（平成24年）7月に外国人登録法が廃止されたことに伴い、2012年（平成24年）以降は外国籍人口を含む。

(参考) 神奈川県・全国の人口と高齢化率の推移

		2000年 (平成12年)	2017年 (平成29年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)
神奈川県	総人口 (人)	8,489,974	9,147,400	9,163,279	9,181,625	9,201,825
	高齢者人口 (人)	1,169,528	2,220,248	2,259,744	2,288,304	2,311,967
	高齢化率 (%)	13.8	24.3	24.7	24.9	25.1
全国	総人口 (万人)	12,693	12,672	12,644	12,617	12,588
	高齢者人口 (万人)	2,204	3,515	3,558	3,589	3,608
	高齢化率 (%)	17.4	27.7	28.1	28.4	28.7

※神奈川県の2000年（平成12年）の人口・高齢化率は、国勢調査結果による集計数値。10月1日現在。

※神奈川県の2014年（平成26年）以降の人口・高齢化率は、「神奈川県年齢別人口統計調査」による。

各年1月1日現在。なお、高齢化率は、総人口から年齢不詳人口を除いて算出。

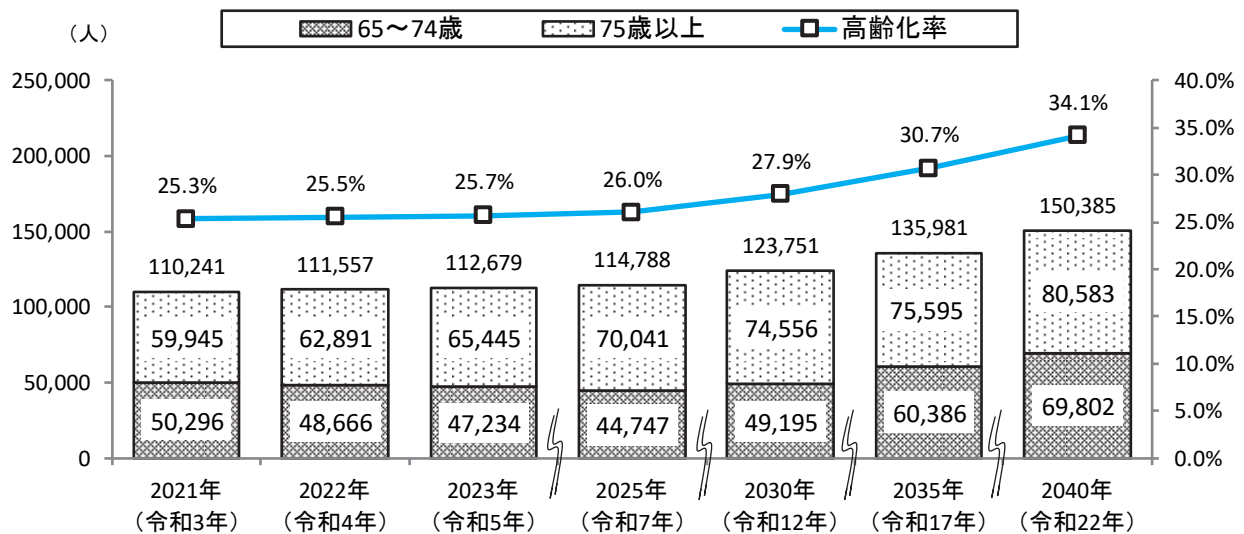
※全国の人口・高齢化率は、総務省統計局「人口推計」による。各年10月1日現在。2020年（令和2年）の人口・高齢化率は、10月1日現在の概算値。

○ 高齢化の今後の見通し [国勢調査に基づく推計]

国勢調査に基づく推計によれば、2025年（令和7年）に、高齢者人口は114,788人、高齢化率は26.0%と推計され、4人に1人が高齢者になります。

また、その後も、高齢者人口、高齢化率ともに上昇し続け、2040年（令和22年）には、高齢者人口が150,385人、高齢化率が34.1%となる見込みです〔図表2-4〕。

図表2-4 藤沢市の高齢者人口の将来の見通し



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用（平成27年国勢調査に基づく推計値）。各年10月1日現在。

（参考）神奈川県・全国の将来推計人口

		2020年 (令和2年)	2025年 (令和7年)	2030年 (令和12年)	2035年 (令和17年)	2040年 (令和22年)
神奈川県	総人口 (人)	9,141,394	9,069,562	8,933,474	8,750,958	8,541,016
	高齢者人口 (人)	2,356,153	2,423,955	2,526,325	2,684,002	2,867,750
	高齢化率 (%)	25.8	26.7	28.3	30.7	33.6
全国	総人口 (万人)	12,533	12,254	11,913	11,522	11,092
	高齢者人口 (万人)	3,619	3,677	3,716	3,782	3,921
	高齢化率 (%)	28.9	30.0	31.2	32.8	35.3

※神奈川県の将来推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成30年3月推計）」の推計結果。各年10月1日現在。

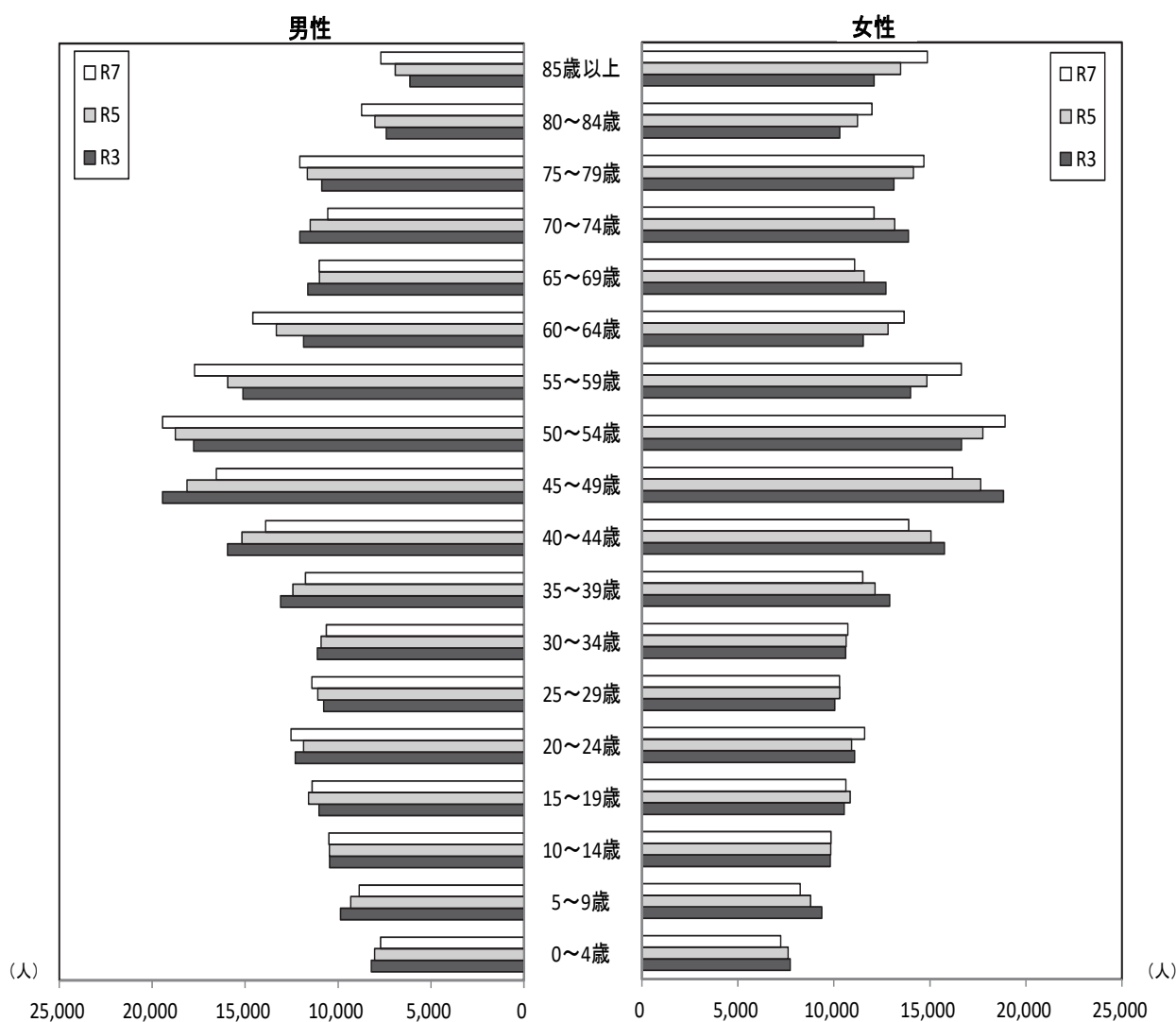
※全国の将来推計人口は、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成29年4月推計）」の推計結果。各年10月1日現在。

○ 人口構造の今後の見通し

人口ピラミッドとは、中央に縦軸を引き、底辺を0歳（今回は0～4歳）、頂点を最高年齢者（今回は85歳以上）として年齢を刻み、左右に男女別・年齢別の人口数または割合を棒グラフで表した「年齢別人口構成図」のことです。日本をはじめとする先進国では、少子高齢化の影響により、「つぼ型」になる傾向にあります。

本市でも、2020年（令和2年）現在、「つぼ型」の傾向にあり、団塊の世代が75歳以上となる2025年（令和7年）へ移行する中で、高齢者人口は増加する一方、30歳代から40歳代の人口は減少する見込みです〔図表2-5〕。

図表2-5 藤沢市の男女別・5歳階級別人口ピラミッド

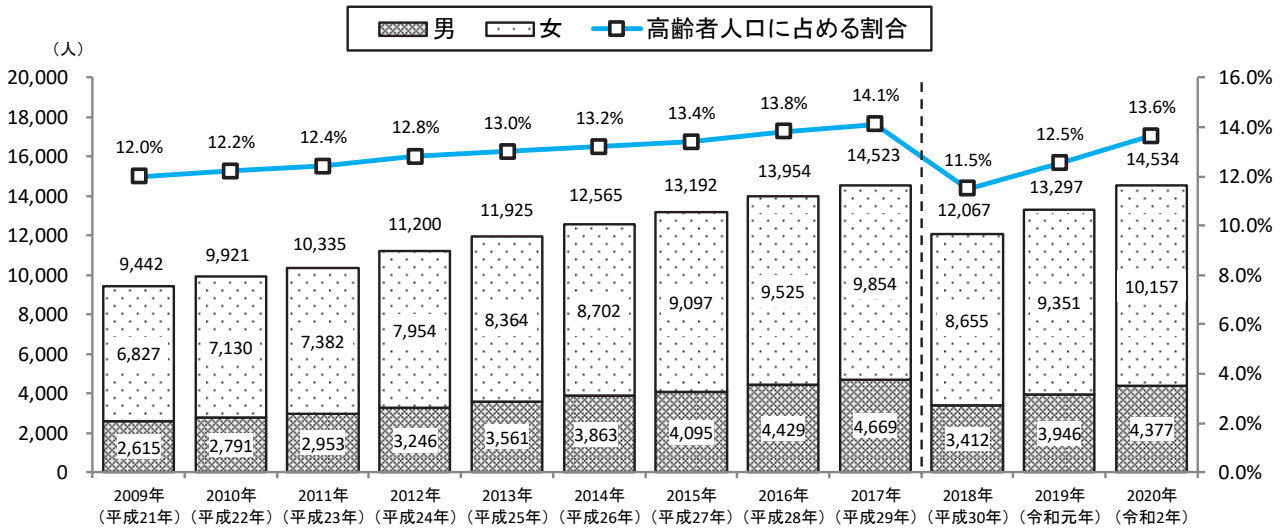


※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用（平成27年国勢調査に基づく推計値）。各年10月1日現在。

○ ひとり暮らし高齢者の動向

ひとり暮らし高齢者台帳によると、2020年（令和2年）10月1日現在、70歳以上のひとり暮らし高齢者は14,534人と、増加傾向にあり、高齢者の1割以上がひとり暮らしをしている状況です〔図表2-6〕。

図表2-6 藤沢市のひとり暮らし高齢者の推移

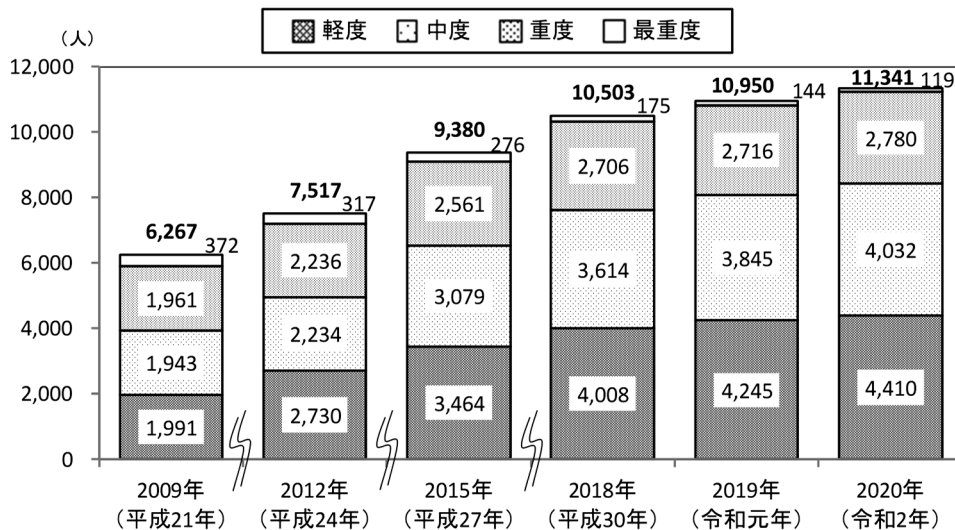


※ひとり暮らし高齢者台帳に基づく。各年10月1日現在。
 ※2018年（平成30年）より年齢基準を65歳以上から70歳以上に変更。

○ 認知症高齢者の動向

介護保険認定調査の「認知症高齢者の日常生活自立度」により、認知症があると認められた高齢者数は、2020年（令和2年）9月末現在で11,341人となっており、毎年増加傾向にあります〔図表2-7〕。

図表2-7 藤沢市の認知症高齢者の推移



※2012年（平成24年）までは各年度末現在。2015年（平成27年）以降は9月末現在。
 ※住所地特例該当者を含む。

2. 介護保険を取り巻く状況

(1) 第1号被保険者の状況

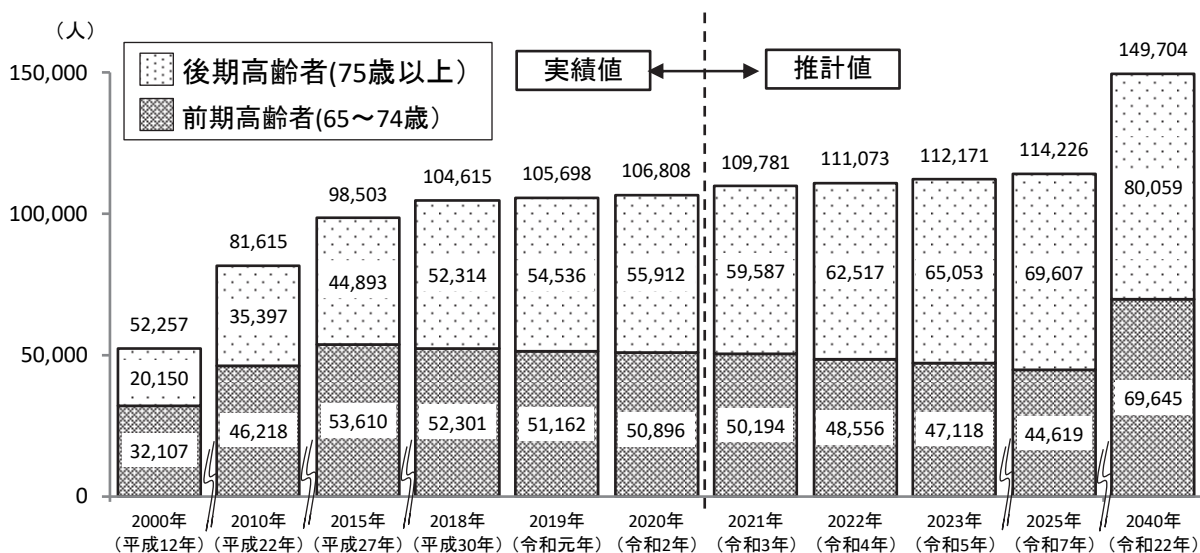
○ *第1号被保険者の推移と今後の見通し

本市の第1号被保険者数は、2020年（令和2年）9月末現在、106,808人となり、前年に比べて1,110人増加しています。第1号被保険者数は今後も増加を続け、2025年（令和7年）には114,226人、2040年（令和22年）には、149,704人となる見込みです〔図表2-8〕。

*第1号被保険者とは、65歳以上の本市の介護保険の被保険者です。

*第1号被保険者数には、住所地特例該当者を含むため、65歳以上人口とは一致しません。

図表2-8 藤沢市の第1号被保険者の推移と今後の見通し



※各年9月末現在。

	2000年 (平成12年)	2010年 (平成22年)	2015年 (平成27年)	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)
第1号被保険者数	52,257	81,615	98,503	104,615	105,698	106,808
前期高齢者(65-74歳)	32,107	46,218	53,610	52,301	51,162	50,896
後期高齢者(75歳以上)	20,150	35,397	44,893	52,314	54,536	55,912
後期高齢者構成割合	38.6%	43.4%	45.6%	50.0%	51.6%	52.3%
	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)	2023年 (令和5年)	2025年 (令和7年)	2040年 (令和22年)	
第1号被保険者数	109,781	111,073	112,171	114,226	149,704	
前期高齢者(65-74歳)	50,194	48,556	47,118	44,619	69,645	
後期高齢者(75歳以上)	59,587	62,517	65,053	69,607	80,059	
後期高齢者構成割合	54.3%	56.3%	58.0%	60.9%	53.5%	

※(単位:人)

(2) 要介護・要支援認定者の状況

○ 要介護・要支援認定者数の推移と今後の見通し

本市の要介護・要支援認定者数（第2号被保険者を含む）は、高齢者数の増加に伴い年々増加し、2020年（令和2年）9月末現在、20,184人となっています。

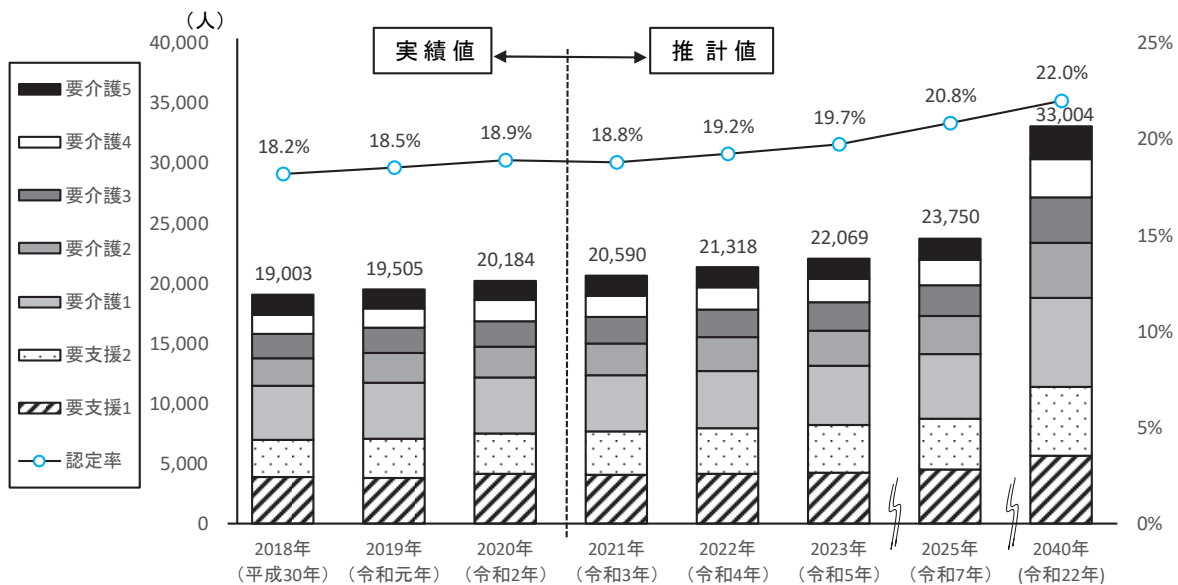
今後も増加傾向は継続し、第8期計画の最終年度である2023年（令和5年）には、22,069人、2040年（令和22年）には、33,004人となる見込みです〔図表2-9・10・11〕。

図表2-9 藤沢市の要介護・要支援認定者数の推移

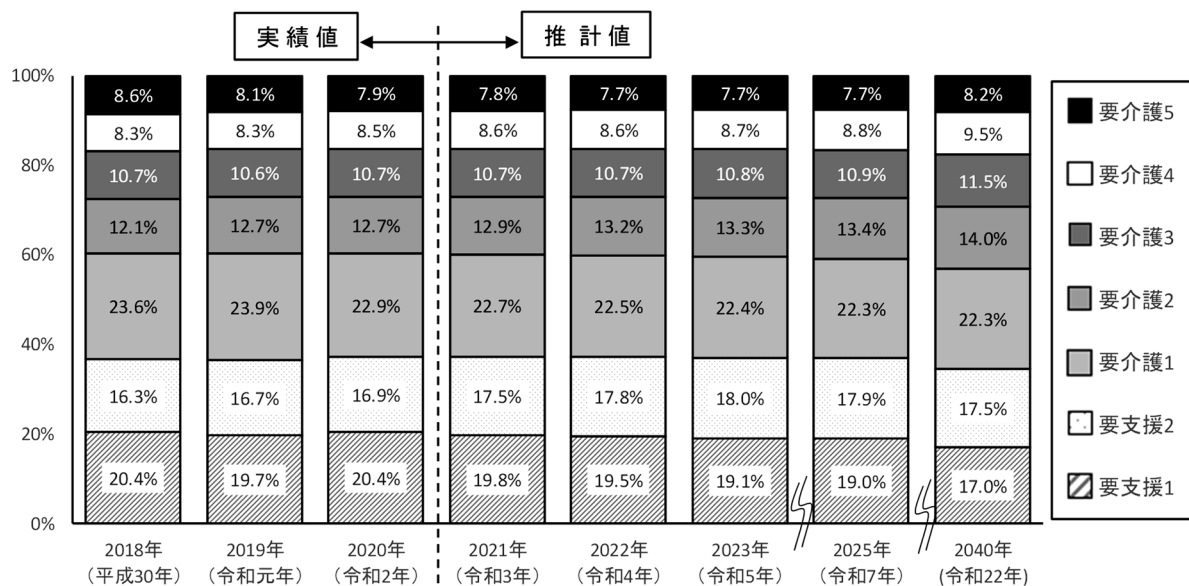
	第7期計画期間			第8期計画期間			2025年 (令和7年)	2040年 (令和22年)
	2018年 (平成30年)	2019年 (令和元年)	2020年 (令和2年)	2021年 (令和3年)	2022年 (令和4年)	2023年 (令和5年)		
要支援1	3,875	3,831	4,125	4,072	4,149	4,231	4,510	5,630
要支援2	3,101	3,259	3,422	3,597	3,791	3,968	4,262	5,763
要介護1	4,486	4,658	4,615	4,679	4,803	4,939	5,304	7,352
要介護2	2,294	2,474	2,557	2,660	2,808	2,935	3,175	4,623
要介護3	2,027	2,072	2,163	2,195	2,287	2,382	2,581	3,806
要介護4	1,584	1,624	1,717	1,770	1,845	1,922	2,085	3,122
要介護5	1,636	1,587	1,585	1,617	1,635	1,692	1,833	2,708
合計	19,003	19,505	20,184	20,590	21,318	22,069	23,750	33,004
対高齢者(第1号被保険者)人口比	18.2%	18.5%	18.9%	18.8%	19.2%	19.7%	20.8%	22.0%

※各年9月末現在。2021年（令和3年）以降は推計値（単位：人）。

図表2-10 藤沢市の要介護・要支援認定者数の推移



図表2-11 藤沢市の要介護・要支援認定者数の構成比の推移



○ 13 地区別の要介護・要支援認定者数

13地区別の要介護・要支援認定者数は、高齢者人口、特に75歳以上の後期高齢者の人口に比例して多くなる傾向にあります。また、65歳以上人口に占める要介護・要支援認定者の割合は、後期高齢者割合の高い片瀬地区・辻堂地区で高く、65歳以上人口に占める前期高齢者の割合が高い湘南大庭地区・遠藤地区では、低い傾向となっています〔図表2-12〕。

図表2-12 13地区別の要介護・要支援認定者数

	総人口	65歳以上人口		65～74歳人口 (前期高齢者)		75歳以上人口 (後期高齢者)		認定者数		
		人数	対人口比 (高齢化率)	人数	対65歳以上人口比	人数	対65歳以上人口比	人数	対65歳以上人口比	順位
片瀬	20,368	5,764	28.3%	2,486	43.1%	3,278	56.9%	1,231	21.4%	1位
鵜沼	58,803	14,207	24.2%	6,571	46.3%	7,636	53.7%	2,697	19.0%	5位
辻堂	44,645	9,923	22.2%	4,534	45.7%	5,389	54.3%	1,915	19.3%	3位
村岡	31,393	6,643	21.2%	3,200	48.2%	3,443	51.8%	1,196	18.0%	8位
藤沢	47,257	10,996	23.3%	5,262	47.9%	5,734	52.1%	2,136	19.4%	2位
明治	30,860	6,782	22.0%	3,353	49.4%	3,429	50.6%	1,304	19.2%	4位
善行	42,152	11,455	27.2%	5,236	45.7%	6,219	54.3%	2,149	18.8%	6位
湘南大庭	32,112	10,465	32.6%	5,518	52.7%	4,947	47.3%	1,505	14.4%	13位
六会	35,711	7,867	22.0%	3,883	49.4%	3,984	50.6%	1,458	18.5%	7位
湘南台	31,361	6,055	19.3%	2,841	46.9%	3,214	53.1%	1,050	17.3%	10位
遠藤	11,876	2,800	23.6%	1,448	51.7%	1,352	48.3%	470	16.8%	12位
長後	33,688	9,011	26.7%	4,154	46.1%	4,857	53.9%	1,544	17.1%	11位
御所見	17,951	5,273	29.4%	2,448	46.4%	2,825	53.6%	948	18.0%	8位

※ (単位: 人)

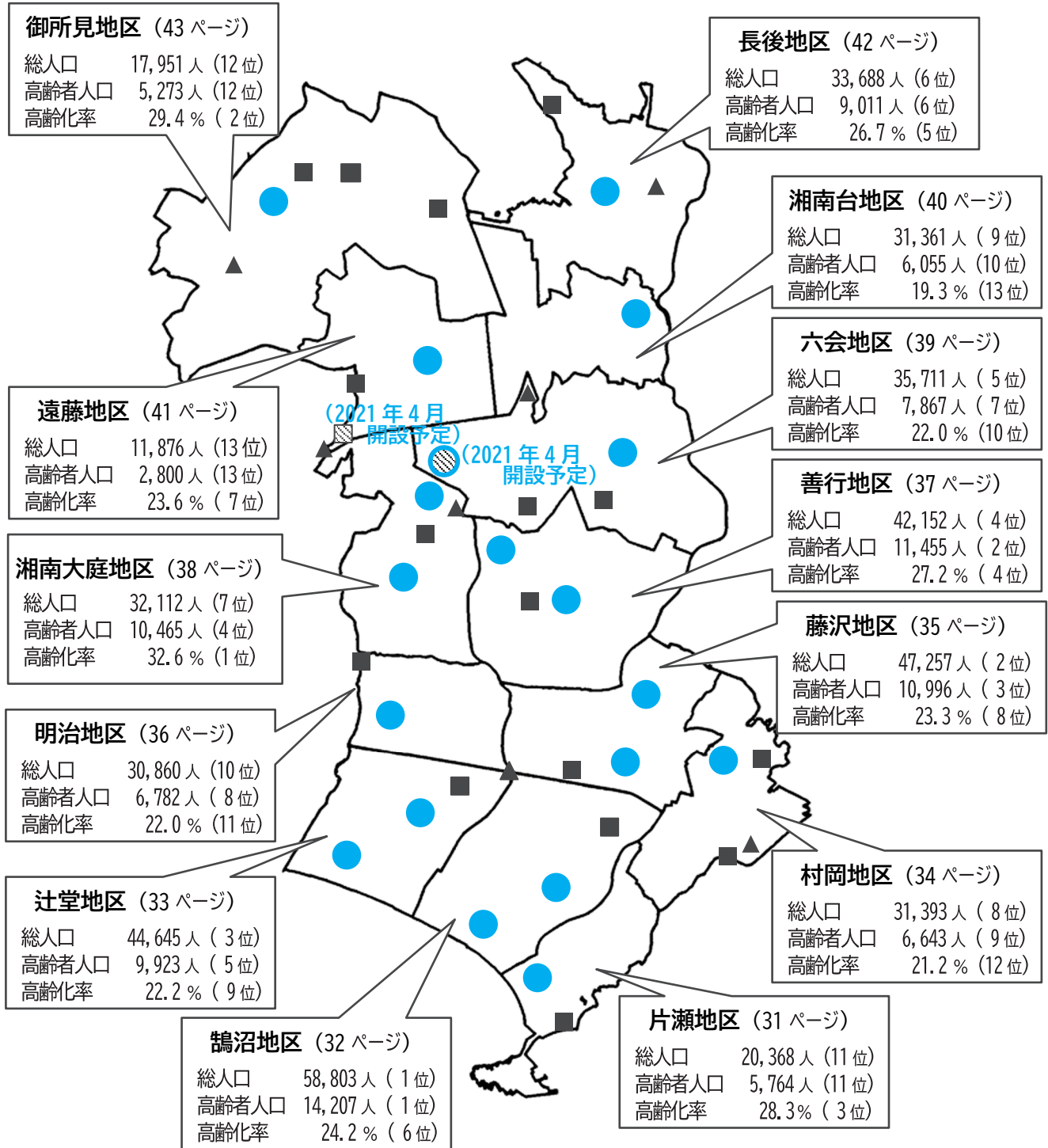
※人口は住民基本台帳に基づく。2020年(令和2年)10月1日現在。

※認定者数は住所地特例該当者を除く。2020年(令和2年)9月末現在。

3. 日常生活圏域の現状と今後の高齢化の見通し

(1) 13 圏域別の現状

※住民基本台帳に基づく。2020年（令和2年）10月1日現在。



(2) 市全域と地区の現状及び今後の高齢化の見通し

市全域



本市は、境川、引地川から湘南海岸・相模湾へと市域を南北に貫く水のネットワークを中心に豊かな自然環境を形成しています。また、行政区域である13地区ごとに、地域の特性を生かしたまちづくりや主体的な市民活動が行われています。

2020年(令和2年)10月現在、高齢化率は24.5%となっており、超高齢社会といわれる都市となっています。

■現状■

【高齢者人口の状況】 (2020年10月1日現在)

総人口	438,177人
高齢者人口	107,241人
(うち、75歳以上の人口)	56,307人
高齢化率	24.5%
(総人口に占める75歳以上人口の割合)	12.9%
ひとり暮らし高齢者人口	14,534人
高齢者人口に占める割合	13.6%
在宅ねたきり高齢者人口	106人
高齢者人口に占める割合	0.10%

※住民基本台帳、ひとり暮らし高齢者台帳、ねたきり高齢者台帳に基づく。

【要介護・要支援の認定の状況】 (2020年9月末現在)

要介護・要支援認定者数	19,603人
高齢者人口に占める割合	18.3%
介護度3区分別認定者数	
要支援1, 2	7,432人 [37.9%]
要介護1, 2	6,938人 [35.4%]
要介護3以上	5,233人 [26.7%]

【認知症の状況(介護保険認定調査の日常生活自立度による) (2020年9月末現在)】

認知症があると推計される人数 10,901人 高齢者数に対する割合 10.2%

【医療に関する情報】

①在宅療養支援病院・診療所	57カ所
②要介護高齢者歯科診療所・在宅歯科診療対応医院	61カ所
③在宅医療受入可能薬局	64カ所
④訪問看護ステーション	32カ所

※①関東信越厚生局 神奈川事務局 ②藤沢市歯科医師会
③藤沢市薬剤師会 ④藤沢市訪問看護ステーション連絡協議会

【施設サービス】 (2020年10月1日現在)

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	16施設
介護老人保健施設	7施設
介護医療院	1施設

【地域密着型サービス】 (2020年10月1日現在)

定期巡回・随時対応型訪問介護看護	3施設
夜間対応型訪問介護	1施設
認知症対応型通所介護	4施設
地域密着型通所介護	49施設
小規模多機能型居宅介護	21施設
看護小規模多機能型居宅介護	4施設
認知症対応型共同生活介護	31施設
地域密着型特定施設入居者生活介護	6施設
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	2施設

【主な地域コミュニティ活動・施設】 (2020年10月現在)

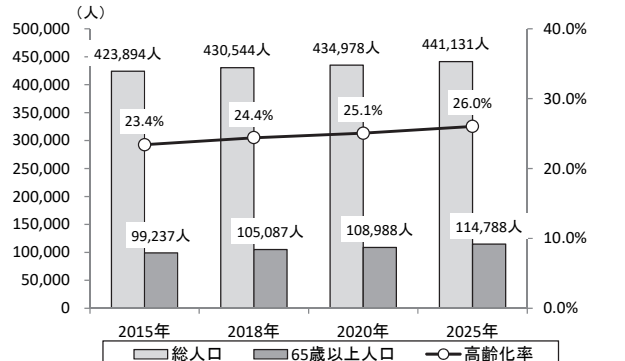
自治会・町内会	478
単位老人クラブ	134クラブ
地域ささえあいセンター	4施設
いきいきシニアセンター	3施設
地域の縁側	36施設
高齢者の通いの場(住民主体型)	7施設
地域市民の家	41カ所
老人憩の家・老人ふれあいの家	3カ所
地区ボランティアセンター	12カ所

【介護予防に関する情報】

介護予防運動自主活動団体	29団体
--------------	------

■今後の高齢化の見通し■

【高齢者人口と高齢化率の推移】

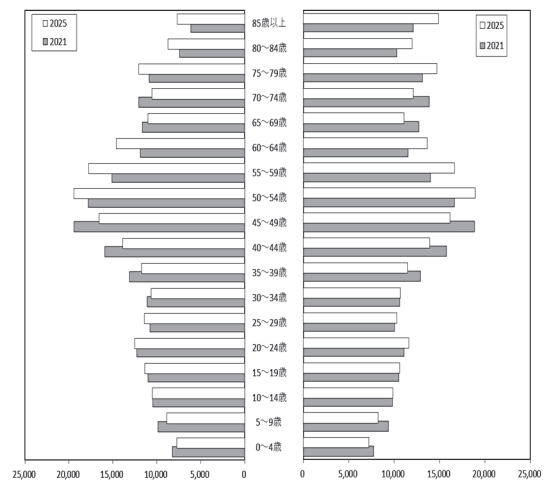


※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

(2018年(平成30年)から2025年(令和7年)の将来見込み)

- ・総人口 : 増加傾向 (+2.5%)
- ・高齢者人口 : 増加傾向 (+9.2%)
- ・高齢化率 : 増加傾向 (+1.6ポイント)

【人口構造の変化】



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

片瀬地区



片瀬地区は、湘南海岸や江の島など自然環境を生かした首都圏有数のレクリエーション拠点により形成されています。藤沢市のイメージを代表する地区の1つであり、多くの観光客が訪れています。比較的に公共交通の利便性が高い一方で、江の島や片瀬山などの地形の高低差が大きいことが特徴です。

■地区の現状■

【高齢者人口の状況】 (2020年10月1日現在)

総人口	20,368人 (11位)
高齢者人口	5,764人 (11位)
(うち、75歳以上人口)	3,278人 (10位)
高齢化率	28.3% (3位)
(総人口に占める75歳以上人口の割合)	16.1% (1位)
ひとり暮らし高齢者人口	473人 (13位)
高齢者人口に占める割合	8.2% (12位)
在宅ねたきり高齢者人口	10人 (4位)
高齢者人口に占める割合	0.17% (2位)

【施設サービス】 (2020年10月1日現在)

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	1施設
---------------------	-----

【地域密着型サービス】 (2020年10月1日現在)

認知症対応型通所介護	1施設
地域密着型通所介護	1施設
認知症対応型共同生活介護	1施設

【主な地域コミュニティ活動・施設】 (2020年10月現在)

自治会・町内会	26
単位老人クラブ	13クラブ
地域の縁側	2施設
地域市民の家	3カ所
地区ボランティアセンター ひだまり片瀬	

※住民基本台帳、ひとり暮らし高齢者台帳、ねたきり高齢者台帳に基づく。

【要介護・要支援の認定の状況】 (2020年9月末現在)

要介護・要支援認定者数	1,231人 (9位)
高齢者人口に占める割合	21.4% (1位)
介護度3区分別認定者数	
要支援1, 2	480人 [39.0%]
要介護1, 2	421人 [34.2%]
要介護3以上	330人 [26.8%]

【認知症の状況(介護保険認定調査の日常生活自立度による)】 (2020年9月末現在)

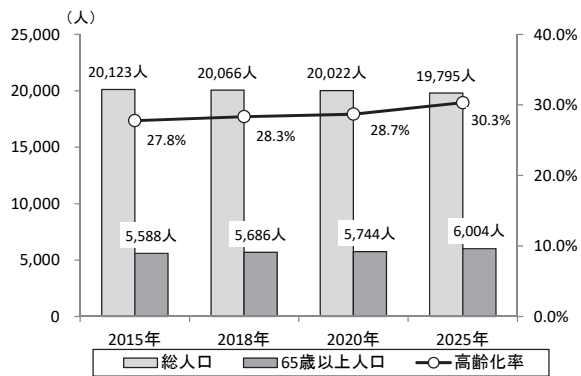
認知症があると推計される人数 665人 高齢者数に対する割合 11.5%

- 【医療に関する情報】
- ①在宅療養支援病院・診療所 8カ所
 - ②要介護高齢者歯科診療所・在宅歯科診療対応医院 3カ所
 - ③在宅医療受入可能薬局 5カ所
 - ④訪問看護ステーション 2カ所

※①関東信越厚生局 神奈川事務局 ②藤沢市歯科医師会
③藤沢市薬剤師会 ④藤沢市訪問看護ステーション連絡協議会

■今後の高齢化の見通し■

【高齢者人口と高齢化率の推移】

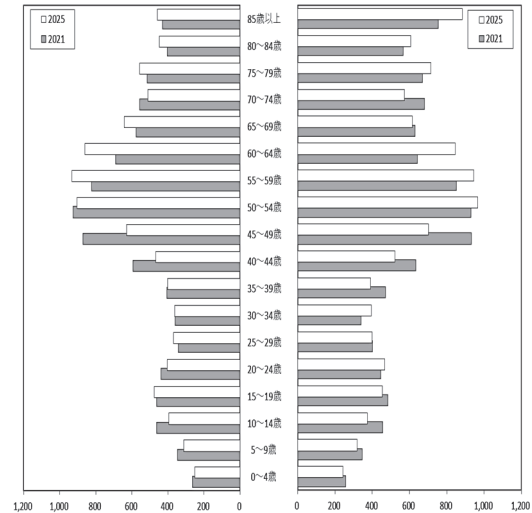


※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

(2018年(平成30年)から2025年(令和7年)の将来見込み)

- ・総人口 : 減少傾向 (▲1.4%)
- ・高齢者人口 : 増加傾向 (+5.6%)
- ・高齢化率 : 増加傾向 (+2.0ポイント)

【人口構造の変化】



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

鵜沼地区



鵜沼地区は、南部に比較的緑が多い閑静な住宅地が形成されている一方、北部は藤沢駅の南側で、商業やサービス機能が集積するとともに、駅に近接した利便性の高さから、多くのマンションも立地しています。

■地区の現状■

【高齢者人口の状況】 (2020年10月1日現在)

総人口	58,803人 (1位)
高齢者人口	14,207人 (1位)
(うち、75歳以上人口)	7,636人 (1位)
高齢化率	24.2% (6位)
(総人口に占める75歳以上人口の割合)	13.0% (6位)
ひとり暮らし高齢者人口	2,350人 (1位)
高齢者人口に占める割合	16.5% (2位)
在宅ねたき高齢者人口	13人 (3位)
高齢者人口に占める割合	0.09% (7位)

※住民基本台帳、ひとり暮らし高齢者台帳、ねたき高齢者台帳に基づく。

【要介護・要支援の認定の状況】 (2020年9月末現在)

要介護・要支援認定者数	2,697人 (1位)
高齢者人口に占める割合	19.0% (5位)
介護度3区分別認定者数	
要支援1, 2	1,044人 [38.7%]
要介護1, 2	914人 [33.9%]
要介護3以上	739人 [27.4%]

【認知症の状況 (介護保険認定調査の日常生活自立度による)】 (2020年9月末現在)

認知症があると推計される人数 1,552人 高齢者数に対する割合 10.9%

【医療に関する情報】

- ①在宅療養支援病院・診療所 9カ所
- ②要介護高齢者歯科診療所・在宅歯科診療対応医院 12カ所
- ③在宅医療受入可能薬局 10カ所
- ④訪問看護ステーション 3カ所

※①関東信越厚生局 神奈川事務局 ②藤沢市歯科医師会
③藤沢市薬剤師会 ④藤沢市訪問看護ステーション連絡協議会

【施設サービス】 (2020年10月1日現在)

介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	1施設
----------------------	-----

【地域密着型サービス】 (2020年10月1日現在)

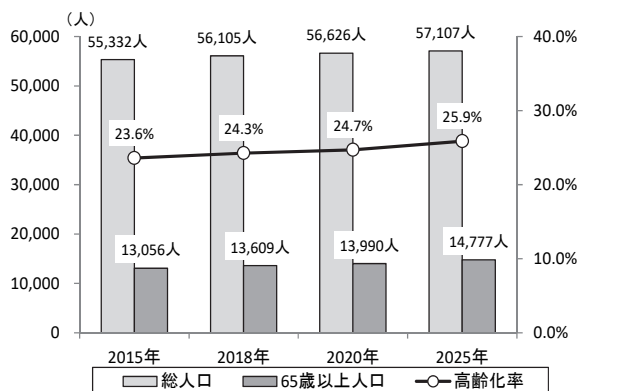
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1施設
地域密着型通所介護	8施設
小規模多機能型居宅介護	3施設
認知症対応型共同生活介護	5施設
地域密着型特定施設入居者生活介護	1施設
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1施設

【主な地域コミュニティ活動・施設】 (2020年10月現在)

自治会・町内会	55
単位老人クラブ	12クラブ
いきいきシニアセンター	1施設
地域の縁側	1施設
高齢者の通いの場	1施設
地域市民の家	4カ所
地区ボランティアセンター ささえ	

■今後の高齢化の見通し■

【高齢者人口と高齢化率の推移】

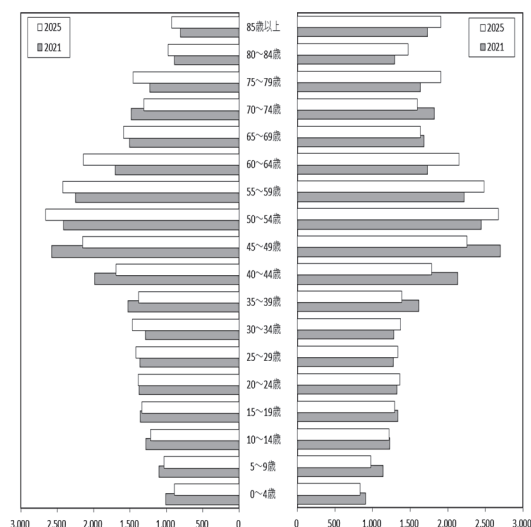


※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

(2018年 (平成30年) から2025年 (令和7年) の将来見込み)

- ・総人口 : 増加傾向 (+1.8%)
- ・高齢者人口 : 増加傾向 (+8.6%)
- ・高齢化率 : 増加傾向 (+1.6ポイント)

【人口構造の変化】



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

辻堂地区



辻堂地区は、海岸沿いに県立辻堂海浜公園が立地し、湘南らしい風致とにぎわい、交流を持ちながら、住宅地と共存しています。地区の半数が低層住宅地となっており、比較的緑も多く閑静な住宅市街地が形成されています。

■地区の現状■

【高齢者人口の状況】	(2020年10月1日現在)	【施設サービス】	(2020年10月1日現在)
総人口	44,645人 (3位)	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	1施設
高齢者人口	9,923人 (5位)	【地域密着型サービス】	(2020年10月1日現在)
(うち、75歳以上人口)	5,389人 (4位)	認知症対応型通所介護	2施設
高齢化率	22.2% (9位)	地域密着型通所介護	4施設
(総人口に占める75歳以上人口の割合)	12.1% (8位)	小規模多機能型居宅介護	2施設
ひとり暮らし高齢者人口	1,457人 (4位)	認知症対応型共同生活介護	2施設
高齢者人口に占める割合	14.7% (4位)	【主な地域コミュニティ活動・施設】	(2020年10月現在)
在宅ねたきり高齢者人口	5人 (8位)	自治会・町内会	47
高齢者人口に占める割合	0.05% (10位)	単位老人クラブ	7クラブ

※住民基本台帳、ひとり暮らし高齢者台帳、ねたきり高齢者台帳に基づく。

【要介護・要支援の認定の状況】	(2020年9月末現在)	【介護予防に関する情報】	
要介護・要支援認定者数	1,915人 (4位)	介護予防運動自主活動団体	2団体
高齢者人口に占める割合	19.3% (3位)		
介護度3区分別認定者数			
要支援1, 2	730人 [38.1%]		
要介護1, 2	701人 [36.6%]		
要介護3以上	484人 [25.3%]		

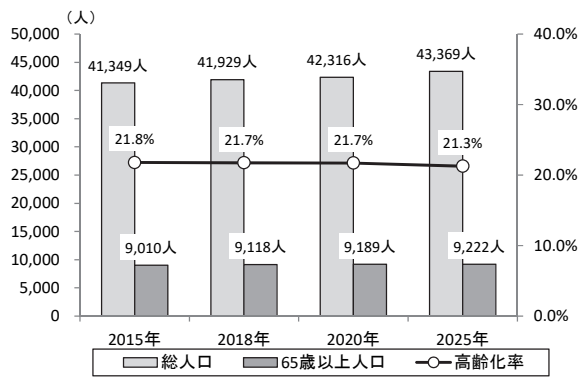
【認知症の状況(介護保険認定調査の日常生活自立度による)】 (2020年9月末現在)
 認知症があると推計される人数 1,076人 高齢者数に対する割合 10.8%

- 【医療に関する情報】**
- ①在宅療養支援病院・診療所 7カ所
 - ②要介護高齢者歯科診療所・在宅歯科診療対応医院 6カ所
 - ③在宅医療受入可能薬局 11カ所
 - ④訪問看護ステーション 4カ所

※①関東信越厚生局 神奈川事務局 ②藤沢市歯科医師会
 ③藤沢市薬剤師会 ④藤沢市訪問看護ステーション連絡協議会

■今後の高齢化の見通し■

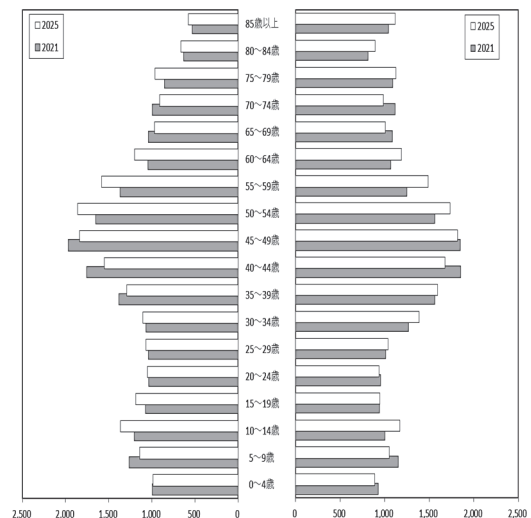
【高齢者人口と高齢化率の推移】



(2018年(平成30年)から2025年(令和7年)の将来見込み)

- ・総人口 : 増加傾向 (+3.4%)
- ・高齢者人口 : 増加傾向 (+1.1%)
- ・高齢化率 : 減少傾向 (▲0.4%)

【人口構造の変化】



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

村岡地区



村岡地区は、北部では低層住宅地、JR 東海道線沿線では工場地となっており、工業と住宅の混成市街地が形成されています。また、もともと傾斜部が多い地形となっています。

■地区の現状■

【高齢者人口の状況】 (2020年10月1日現在)

総人口	31,393人 (8位)
高齢者人口	6,643人 (9位)
(うち、75歳以上人口)	3,443人 (8位)
高齢化率	21.2% (12位)
(総人口に占める75歳以上人口の割合)	11.0% (12位)
ひとり暮らし高齢者人口	822人 (9位)
高齢者人口に占める割合	12.4% (9位)
在宅ねたきり高齢者人口	8人 (6位)
高齢者人口に占める割合	0.12% (6位)

※住民基本台帳、ひとり暮らし高齢者台帳、ねたきり高齢者台帳に基づく。

【要介護・要支援の認定の状況】 (2020年9月末現在)

要介護・要支援認定者数	1,196人 (10位)
高齢者人口に占める割合	18.0% (8位)
介護度3区分別認定者数	
要支援1, 2	463人 [38.7%]
要介護1, 2	406人 [34.0%]
要介護3以上	327人 [27.3%]

【認知症の状況 (介護保険認定調査の日常生活自立度による)】 (2020年9月末現在)】
 認知症があると推計される人数 665人 高齢者数に対する割合 10.0%

- 【医療に関する情報】
- ①要介護高齢者歯科診療所・在宅歯科診療対応医院 3カ所
 - ②在宅医療受入可能薬局 3カ所
 - ③訪問看護ステーション 1カ所

※①藤沢市歯科医師会 ②藤沢市薬剤師会
 ③藤沢市訪問看護ステーション連絡協議会

【施設サービス】 (2020年10月1日現在)

介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	2施設
介護老人保健施設	1施設

【地域密着型サービス】 (2020年10月1日現在)

地域密着型通所介護	4施設
小規模多機能型居宅介護	2施設
認知症対応型共同生活介護	4施設

【主な地域コミュニティ活動・施設】 (2020年10月現在)

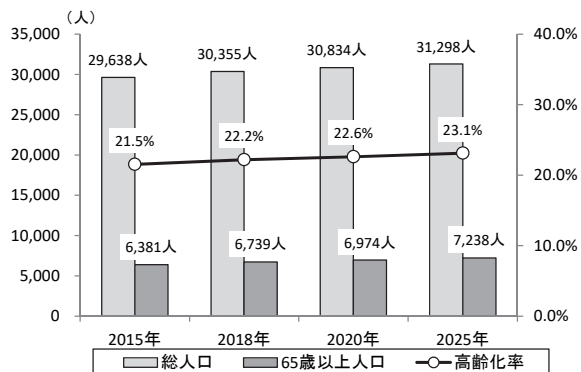
自治会・町内会	23
単位老人クラブ	10クラブ
地域ささえあいセンター	1施設
地域の縁側	2施設
地域市民の家	3カ所
地区ボランティアセンター	ぬくもり

【介護予防に関する情報】

介護予防運動自主活動団体	3団体
--------------	-----

■今後の高齢化の見通し■

【高齢者人口と高齢化率の推移】

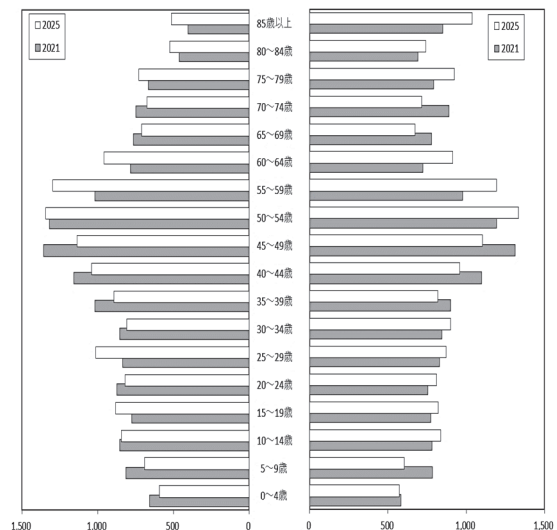


※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

(2018年 (平成30年) から2025年 (令和7年) の将来見込み)

- ・総人口 : 増加傾向 (+3.1%)
- ・高齢者人口 : 増加傾向 (+7.4%)
- ・高齢化率 : 増加傾向 (+0.9ポイント)

【人口構造の変化】



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

藤沢地区



藤沢地区は、藤沢駅北口を中心に商業・業務地と住宅地などにより構成され、鉄道3線が結節するターミナルとして利便性の高い場所であるとともに、歴史・文化や自然資源にも恵まれています。

■地区の現状■

【高齢者人口の状況】	(2020年10月1日現在)	【施設サービス】	(2020年10月1日現在)
総人口	47,257人 (2位)	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	1施設
高齢者人口	10,996人 (3位)	介護老人保健施設	1施設
(うち、75歳以上人口)	5,734人 (3位)	【地域密着型サービス】	(2020年10月1日現在)
高齢化率	23.3% (8位)	地域密着型通所介護	10施設
(総人口に占める75歳以上人口の割合)	12.1% (7位)	看護小規模多機能型居宅介護	2施設
ひとり暮らし高齢者人口	1,795人 (2位)	認知症対応型共同生活介護	1施設
高齢者人口に占める割合	16.3% (3位)	【主な地域コミュニティ活動・施設】	(2020年10月現在)
在宅ねたきり高齢者人口	18人 (1位)	自治会・町内会	77
高齢者人口に占める割合	0.16% (3位)	単位老人クラブ	18クラブ
		地域ささえあいセンター	1施設
		地域の縁側	7施設
		高齢者の通いの場	1施設
		地域市民の家	4カ所
		地区ボランティアセンター	きずな
		【介護予防に関する情報】	
		介護予防運動自主活動団体	4団体

※住民基本台帳、ひとり暮らし高齢者台帳、ねたきり高齢者台帳に基づく。

【要介護・要支援の認定の状況】	(2020年9月末現在)
要介護・要支援認定者数	2,136人 (3位)
高齢者人口に占める割合	19.4% (2位)
介護度3区分別認定者数	
要支援1, 2	827人 [38.7%]
要介護1, 2	744人 [34.8%]
要介護3以上	565人 [26.5%]

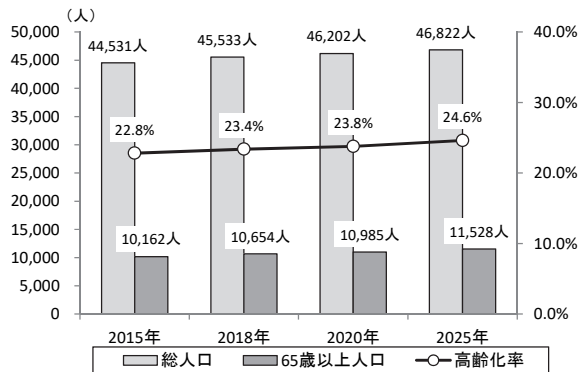
【認知症の状況(介護保険認定調査の日常生活自立度による)】 (2020年9月末現在)]
 認知症があると推計される人数 1,165人 高齢者数に対する割合 10.6%

- 【医療に関する情報】**
- ①在宅療養支援病院・診療所 9カ所
 - ②要介護高齢者歯科診療所・在宅歯科診療対応医院 10カ所
 - ③在宅医療受入可能薬局 9カ所
 - ④訪問看護ステーション 5カ所

※①関東信越厚生局 神奈川事務局 ②藤沢市歯科医師会
 ③藤沢市薬剤師会 ④藤沢市訪問看護ステーション連絡協議会

■今後の高齢化の見通し■

【高齢者人口と高齢化率の推移】

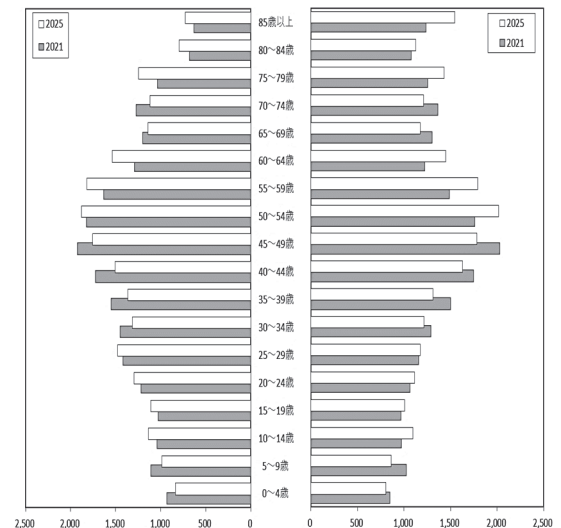


※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

(2018年(平成30年)から2025年(令和7年)の将来見込み)

- ・総人口 : 増加傾向 (+2.8%)
- ・高齢者人口 : 増加傾向 (+8.2%)
- ・高齢化率 : 増加傾向 (+1.2ポイント)

【人口構造の変化】



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

明治地区



明治地区は、辻堂駅周辺に都市機能が集まっています。また、住宅地として旧道沿いに集落が形成されていましたが、高度成長期以降、急激に住宅地開発が進み、集合住宅などが建設されています。

■地区の現状■

【高齢者人口の状況】	(2020年10月1日現在)
総人口	30,860人 (10位)
高齢者人口	6,782人 (8位)
(うち、75歳以上人口)	3,429人 (9位)
高齢化率	22.0% (11位)
(総人口に占める75歳以上人口の割合)	11.1% (11位)
ひとり暮らし高齢者人口	928人 (7位)
高齢者人口に占める割合	13.7% (8位)
在宅ねたきり高齢者人口	4人 (11位)
高齢者人口に占める割合	0.06% (9位)

※住民基本台帳、ひとり暮らし高齢者台帳、ねたきり高齢者台帳に基づく。

【要介護・要支援の認定の状況】	(2020年9月末現在)
要介護・要支援認定者数	1,304人 (8位)
高齢者人口に占める割合	19.2% (4位)
介護度3区分別認定者数	
要支援1, 2	538人 [41.2%]
要介護1, 2	422人 [32.4%]
要介護3以上	344人 [26.4%]

【認知症の状況(介護保険認定調査の日常生活自立度による) (2020年9月末現在)】
 認知症があると推計される人数 694人 高齢者数に対する割合 10.2%

【医療に関する情報】	
①在宅療養支援病院・診療所	3カ所
②要介護高齢者歯科診療所・在宅歯科診療対応医院	3カ所
③在宅医療受入可能薬局	6カ所
④訪問看護ステーション	3カ所

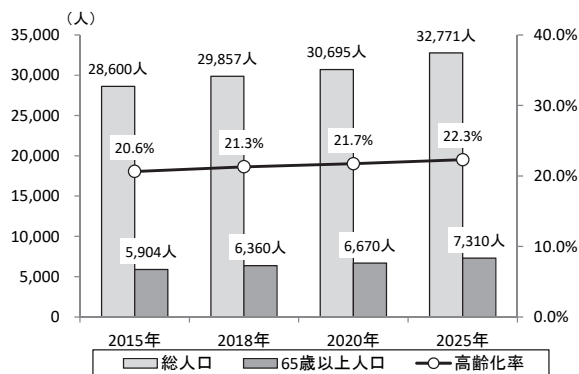
※①関東信越厚生局 神奈川事務局 ②藤沢市歯科医師会
 ③藤沢市薬剤師会 ④藤沢市訪問看護ステーション連絡協議会

【施設サービス】	(2020年10月1日現在)
介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	1施設
【地域密着型サービス】	(2020年10月1日現在)
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1施設
夜間対応型訪問介護	1施設
地域密着型通所介護	1施設
小規模多機能型居宅介護	2施設
認知症対応型共同生活介護	2施設
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護	1施設

【主な地域コミュニティ活動・施設】	(2020年10月現在)
自治会・町内会	30
単位老人クラブ	9クラブ
地域の縁側	3施設
地域市民の家	2カ所
地区ボランティアセンター	むすびて
【介護予防に関する情報】	
介護予防運動自主活動団体	1団体

■今後の高齢化の見通し■

【高齢者人口と高齢化率の推移】

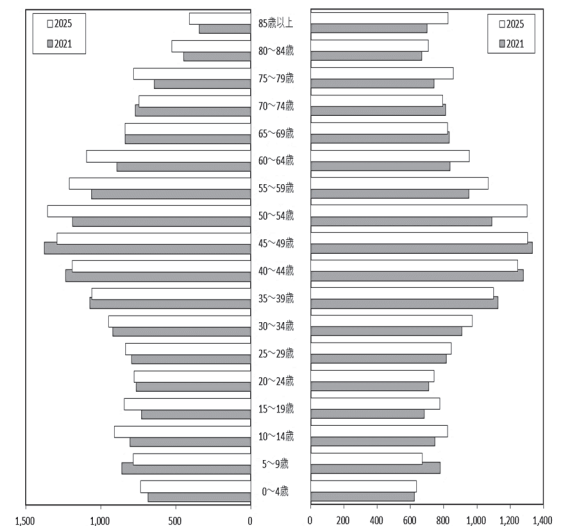


※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

(2018年(平成30年)から2025年(令和7年)の将来見込み)

- ・総人口 : 増加傾向 (+9.8%)
- ・高齢者人口 : 増加傾向 (+14.9%)
- ・高齢化率 : 増加傾向 (+1.0ポイント)

【人口構造の変化】



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

善行地区



善行地区は、坂道の多い地形です。1964年（昭和39年）に県営亀井野団地、翌1965年（昭和40年）には善行団地の造成といった大規模な住宅開発が続き、現在の善行地区の基盤ができあがりました。

■地区の現状■

【高齢者人口の状況】	(2020年10月1日現在)	【施設サービス】	(2020年10月1日現在)
総人口	42,152人 (4位)	介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	1施設
高齢者人口	11,455人 (2位)	介護医療院	1施設
（うち、75歳以上人口）	6,219人 (2位)	【地域密着型サービス】	(2020年10月1日現在)
高齢化率	27.2% (4位)	認知症対応型通所介護	1施設
（総人口に占める75歳以上人口の割合）	14.8% (4位)	地域密着型通所介護	4施設
ひとり暮らし高齢者人口	1,592人 (3位)	小規模多機能型居宅介護	2施設
高齢者人口に占める割合	13.9% (7位)	認知症対応型共同生活介護	2施設
在宅ねたきり高齢者人口	10人 (5位)	地域密着型特定施設入居者生活介護	1施設
高齢者人口に占める割合	0.09% (8位)		

※住民基本台帳、ひとり暮らし高齢者台帳、ねたきり高齢者台帳に基づく。

【要介護・要支援の認定の状況】	(2020年9月末現在)
要介護・要支援認定者数	2,149人 (2位)
高齢者人口に占める割合	18.8% (6位)
介護度3区分別認定者数	
要支援1, 2	835人 [38.9%]
要介護1, 2	778人 [36.2%]
要介護3以上	536人 [24.9%]

【認知症の状況（介護保険認定調査の日常生活自立度による）	(2020年9月末現在)
認知症があると推計される人数	1,192人
高齢者数に対する割合	10.4%

【医療に関する情報】	
①在宅療養支援病院・診療所	3カ所
②要介護高齢者歯科診療所・在宅歯科診療対応医院	4カ所
③在宅医療受入可能薬局	5カ所
④訪問看護ステーション	2カ所

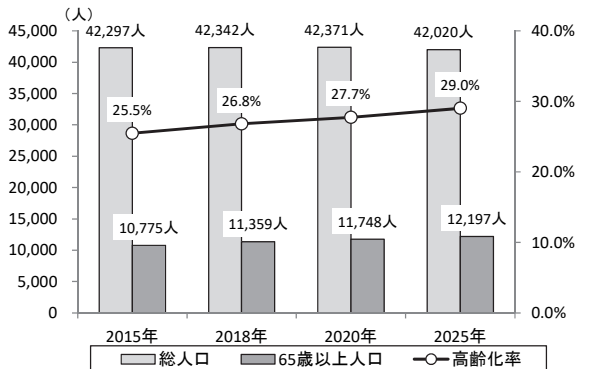
※①関東信越厚生局 神奈川事務局 ②藤沢市歯科医師会
③藤沢市薬剤師会 ④藤沢市訪問看護ステーション連絡協議会

【主な地域コミュニティ活動・施設】	(2020年10月現在)
自治会・町内会	37
単位老人クラブ	8クラブ
いきいきシニアセンター	1施設
地域の縁側	5施設
高齢者の通いの場	1施設
地域市民の家	4カ所
老人憩の家・老人ふれあいの家	1カ所
地区ボランティアセンター パートナーシップ善行	

【介護予防に関する情報】	
介護予防運動自主活動団体	2団体

■今後の高齢化の見通し■

【高齢者人口と高齢化率の推移】

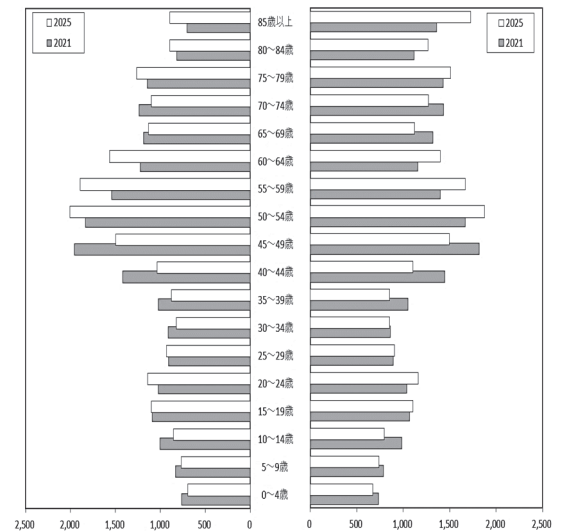


※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

(2018年(平成30年)から2025年(令和7年)の将来見込み)

- ・総人口 : 減少傾向 (▲0.8%)
- ・高齢者人口 : 増加傾向 (+7.4%)
- ・高齢化率 : 増加傾向 (+2.2ポイント)

【人口構造の変化】



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

湘南大庭地区



湘南大庭地区は、昭和40年代に、「湘南ライフタウン」として、都市と農業の調和を図る総合的なまちづくりが進められ、都市公園が計画的に配置されるなど、緑豊かな居住環境が形成されています。

■地区の現状■

【高齢者人口の状況】 (2020年10月1日現在)

総人口	32,112人 (7位)
高齢者人口	10,465人 (4位)
(うち、75歳以上人口)	4,947人 (5位)
高齢化率	32.6% (1位)
(総人口に占める75歳以上人口の割合)	15.4% (3位)
ひとり暮らし高齢者人口	787人 (10位)
高齢者人口に占める割合	7.5% (13位)
在宅ねたき高齢者人口	5人 (9位)
高齢者人口に占める割合	0.05% (11位)

※住民基本台帳、ひとり暮らし高齢者台帳、ねたき高齢者台帳に基づく。

【要介護・要支援の認定の状況】 (2020年9月末現在)

要介護・要支援認定者数	1,505人 (6位)
高齢者人口に占める割合	14.4% (13位)
介護度3区分別認定者数	
要支援1, 2	585人 [38.9%]
要介護1, 2	529人 [35.1%]
要介護3以上	391人 [26.0%]

【認知症の状況 (介護保険認定調査の日常生活自立度による)】 (2020年9月末現在)

認知症があると推計される人数 782人 高齢者数に対する割合 7.5%

【医療に関する情報】

- ①在宅療養支援病院・診療所 2カ所
- ②要介護高齢者歯科診療所・在宅歯科診療対応医院 4カ所
- ③在宅医療受入可能薬局 3カ所
- ④訪問看護ステーション 3カ所

※①関東信越厚生局 神奈川事務局 ②藤沢市歯科医師会
③藤沢市薬剤師会 ④藤沢市訪問看護ステーション連絡協議会

【施設サービス】 (2020年10月1日現在)

介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	1施設
----------------------	-----

【地域密着型サービス】 (2020年10月1日現在)

地域密着型通所介護	2施設
小規模多機能型居宅介護	2施設
認知症対応型共同生活介護	3施設
地域密着型特定施設入居者生活介護	1施設

【主な地域コミュニティ活動・施設】 (2020年10月現在)

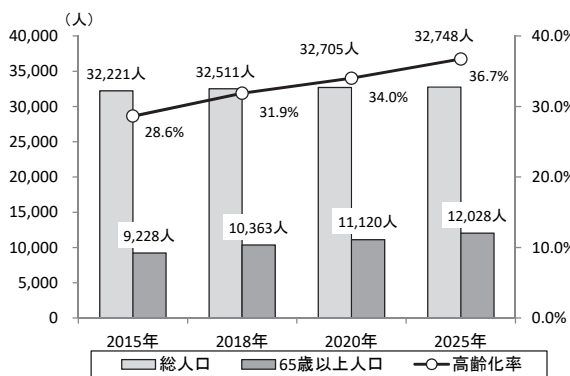
自治会・町内会	49
単位老人クラブ	7クラブ
地域の縁側	4施設
地域市民の家	4カ所
地区ボランティアセンター ライフタウン・ジョワ	

【介護予防に関する情報】

介護予防運動自主活動団体	2団体
--------------	-----

■今後の高齢化の見通し■

【高齢者人口と高齢化率の推移】

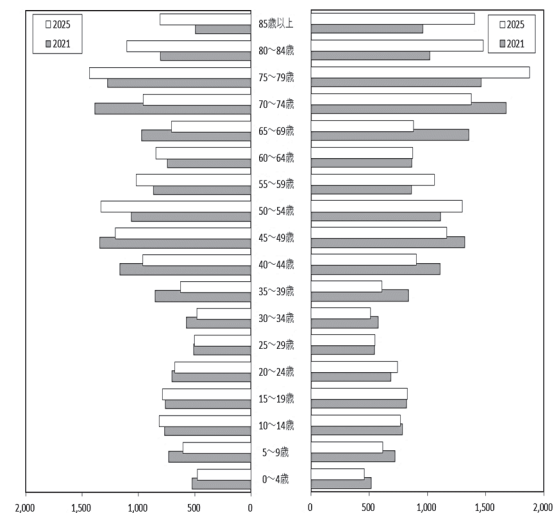


※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

(2018年 (平成30年) から2025年 (令和7年) 将来見込み)

- ・総人口 : 増加傾向 (+0.7%)
- ・高齢者人口 : 増加傾向 (+16.1%)
- ・高齢化率 : 増加傾向 (+4.8ポイント)

【人口構造の変化】



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

六会地区



六会地区は、自然環境に恵まれた緑豊かな居住環境を形成しています。一方、地区が東西に広く、小田急線と引地川によって分断されています。公共交通はミニバスの導入で改善もみられますが、地区の中心部への移動手段が不十分な地域も残されています。

■地区の現状■

【高齢者人口の状況】	(2020年10月1日現在)	【施設サービス】	(2020年10月1日現在)
総人口	35,711人 (5位)	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	2施設
高齢者人口	7,867人 (7位)	介護老人保健施設	1施設
(うち、75歳以上人口)	3,984人 (7位)	【地域密着型サービス】	(2020年10月1日現在)
高齢化率	22.0% (10位)	地域密着型通所介護	6施設
(総人口に占める75歳以上人口の割合)	11.2% (10位)	小規模多機能型居宅介護	3施設
ひとり暮らし高齢者人口	1,154人 (5位)	看護小規模多機能型居宅介護	1施設
高齢者人口に占める割合	14.7% (5位)	認知症対応型共同生活介護	2施設
在宅ねたきり高齢者人口	16人 (2位)	【主な地域コミュニティ活動・施設】	(2020年10月現在)
高齢者人口に占める割合	0.20% (1位)	自治会・町内会	38

※住民基本台帳、ひとり暮らし高齢者台帳、ねたきり高齢者台帳に基づく。

【要介護・要支援の認定の状況】	(2020年9月末現在)	単位老人クラブ	12クラブ
要介護・要支援認定者数	1,458人 (7位)	地域の縁側	2施設
高齢者人口に占める割合	18.5% (7位)	高齢者の通いの場	1施設
介護度3区分別認定者数		地域市民の家	4カ所
要支援1, 2	535人 [36.7%]	地区ボランティアセンター ボランティアセンターむつあい	
要介護1, 2	518人 [35.5%]		
要介護3以上	405人 [27.8%]		

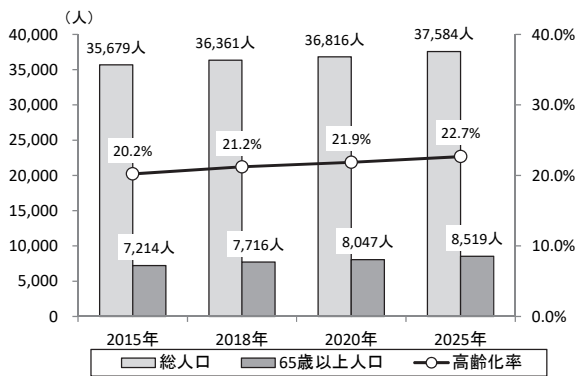
【認知症の状況(介護保険認定調査の日常生活自立度による)】 (2020年9月末現在))
 認知症があると推計される人数 808人 高齢者数に対する割合 10.3%

- 【医療に関する情報】**
- ①在宅療養支援病院・診療所 4カ所
 - ②要介護高齢者歯科診療所・在宅歯科診療対応医院 3カ所
 - ③在宅医療受入可能薬局 1カ所
 - ④訪問看護ステーション 3カ所

※①関東信越厚生局 神奈川事務局 ②藤沢市歯科医師会
 ③藤沢市薬剤師会 ④藤沢市訪問看護ステーション連絡協議会

■今後の高齢化の見通し■

【高齢者人口と高齢化率の推移】

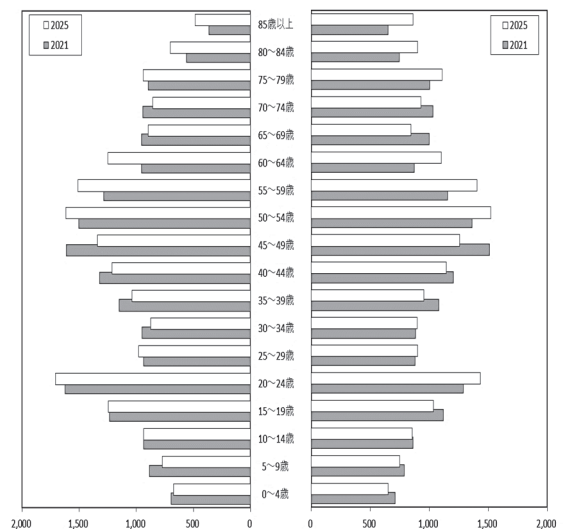


※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

(2018年(平成30年)から2025年(令和7年)の将来見込み)

- ・総人口 : 増加傾向 (+3.4%)
- ・高齢者人口 : 増加傾向 (+10.4%)
- ・高齢化率 : 増加傾向 (+1.5%)

【人口構造の変化】



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

湘南台地区



湘南台地区は、市民センターの開設にあわせ、1989年（平成元年）に誕生した新しい地区です。北部地域の拠点として、商業や様々なサービス機能が集まっており、利便性が高くなっています。

■地区の現状■

【高齢者人口の状況】 (2020年10月1日現在)

総人口	31,361人	(9位)
高齢者人口	6,055人	(10位)
(うち、75歳以上人口)	3,214人	(11位)
高齢化率	19.3%	(13位)
(総人口に占める75歳以上人口の割合)	10.2%	(13位)
ひとり暮らし高齢者人口	865人	(8位)
高齢者人口に占める割合	14.3%	(6位)
在宅ねたきり高齢者人口	2人	(13位)
高齢者人口に占める割合	0.03%	(13位)

※住民基本台帳、ひとり暮らし高齢者台帳、ねたきり高齢者台帳に基づく。

【要介護・要支援の認定の状況】 (2020年9月末現在)

要介護・要支援認定者数	1,050人	(11位)
高齢者人口に占める割合	17.3%	(10位)
介護度3区別認定者数		
要支援1, 2	382人	[36.4%]
要介護1, 2	395人	[37.6%]
要介護3以上	273人	[26.0%]

【認知症の状況（介護保険認定調査の日常生活自立度による）(2020年9月末現在)】

認知症があると推計される人数 603人 高齢者数に対する割合 10.0%

【医療に関する情報】

- ①在宅療養支援病院・診療所 5カ所
- ②要介護高齢者歯科診療所・在宅歯科診療対応医院 7カ所
- ③在宅医療受入可能薬局 5カ所
- ④訪問看護ステーション 2カ所

※①関東信越厚生局 神奈川事務局 ②藤沢市歯科医師会
③藤沢市薬剤師会 ④藤沢市訪問看護ステーション連絡協議会

【施設サービス】 (2020年10月1日現在)

介護老人保健施設 1施設

【地域密着型サービス】 (2020年10月1日現在)

- 定期巡回・随時対応型訪問介護看護 1施設
- 地域密着型通所介護 1施設
- 小規模多機能型居宅介護 1施設
- 認知症対応型共同生活介護 3施設
- 地域密着型特定施設入居者生活介護 1施設

【主な地域コミュニティ活動・施設】 (2020年10月現在)

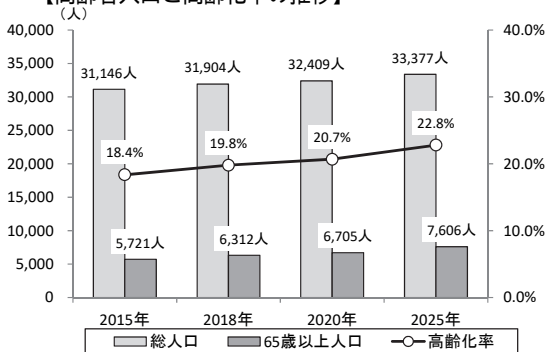
- 自治会・町内会 34
- 単位老人クラブ 9クラブ
- 地域の縁側 1施設
- 高齢者の通いの場 1施設
- 地域市民の家 1カ所
- 地区ボランティアセンター ちょこっと湘南台

【介護予防に関する情報】

介護予防運動自主活動団体 7団体

■今後の高齢化の見通し■

【高齢者人口と高齢化率の推移】

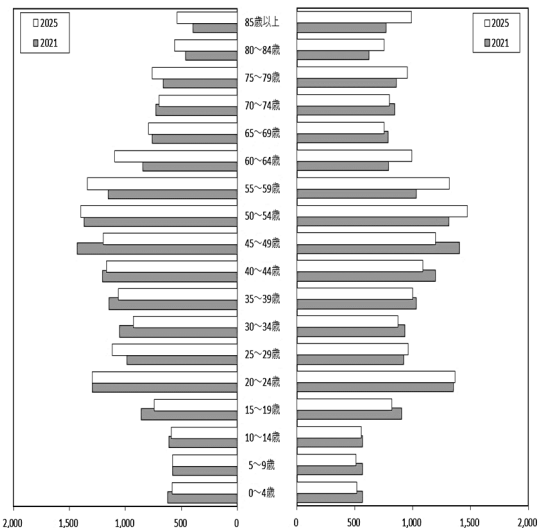


※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

(2018年(平成30年)から2025年(令和7年)の将来見込み)

- ・総人口 : 増加傾向 (+4.6%)
- ・高齢者人口 : 増加傾向 (+20.5%)
- ・高齢化率 : 増加傾向 (+3.0ポイント)

【人口構造の変化】



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

遠藤地区



遠藤地区は、台地と谷戸によって構成されており、農業を中心としたまちが形成され、また、西部の「健康と文化の森」にある慶應義塾大学（湘南藤沢キャンパス）と一体となったまちづくりを進めています。

■地区の現状■

【高齢者人口の状況】 (2020年10月1日現在)

総人口	11,876人 (13位)
高齢者人口	2,800人 (13位)
（うち、75歳以上人口）	1,352人 (13位)
高齢化率	23.6% (7位)
（総人口に占める75歳以上人口の割合）	11.4% (9位)
ひとり暮らし高齢者人口	635人 (11位)
高齢者人口に占める割合	22.7% (1位)
在宅ねたき高齢者人口	4人 (10位)
高齢者人口に占める割合	0.14% (4位)

※住民基本台帳、ひとり暮らし高齢者台帳、ねたき高齢者台帳に基づく。

【要介護・要支援の認定の状況】 (2020年9月末現在)

要介護・要支援認定者数	470人 (13位)
高齢者人口に占める割合	16.8% (12位)
介護度3区分別認定者数	
要支援1, 2	165人 [35.1%]
要介護1, 2	175人 [37.2%]
要介護3以上	130人 [27.7%]

【認知症の状況（介護保険認定調査の日常生活自立度による）(2020年9月末現在)】
認知症があると推計される人数 270人 高齢者数に対する割合 9.6%

【医療に関する情報】

①要介護高齢者歯科診療所・在宅歯科診療対応医院 1カ所

※①藤沢市歯科医師会

【施設サービス】 (2020年10月1日現在)

介護老人福祉施設（特別養護老人ホーム）	1施設
介護老人保健施設	1施設

【地域密着型サービス】 (2020年10月1日現在)

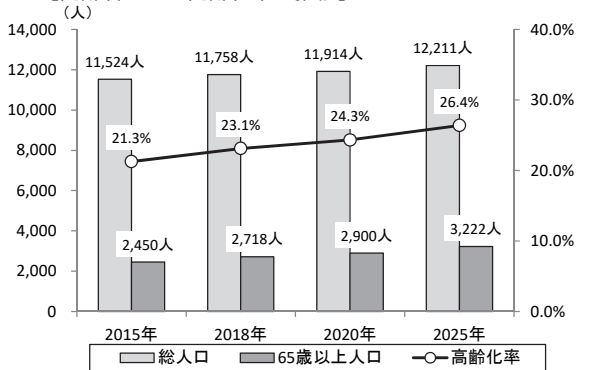
地域密着型通所介護	2施設
小規模多機能型居宅介護	1施設
認知症対応型共同生活介護	2施設

【主な地域コミュニティ活動・施設】 (2020年10月現在)

自治会・町内会	10
単位老人クラブ	6クラブ
地域の縁側	1施設
地域市民の家	1カ所
地区ボランティアセンター シェークハンズ遠藤	

■今後の高齢化の見通し■

【高齢者人口と高齢化率の推移】

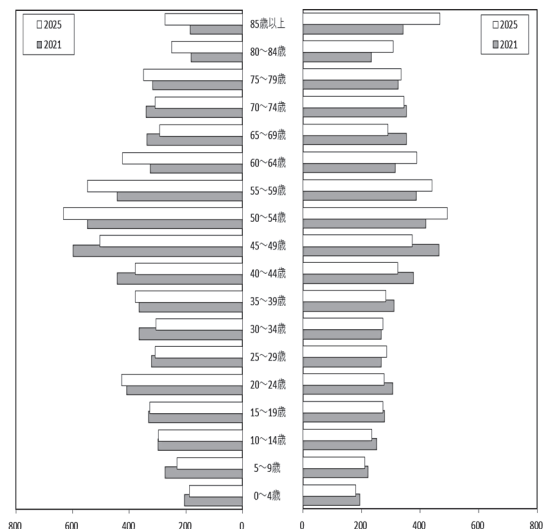


※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

(2018年(平成30年)から2025年(令和7年)の将来見込み)

- ・総人口 : 増加傾向 (+3.9%)
- ・高齢者人口 : 増加傾向 (+18.5%)
- ・高齢化率 : 増加傾向 (+3.3ポイント)

【人口構造の変化】



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

長後地区



長後地区は、長後駅に周辺地区や隣接市へアクセスするバスの発着が多い一方で、商店街を含む駅周辺では、通過交通が多く歩道空間が十分に確保されておらず、安心して買い物がしにくい環境となっており、空き店舗の増加など、地域の活力が停滞傾向にあることが課題となっています。

■地区の現状■

【高齢者人口の状況】 (2020年10月1日現在)

総人口	33,688人 (6位)
高齢者人口	9,011人 (6位)
(うち、75歳以上人口)	4,857人 (6位)
高齢化率	26.7% (5位)
(総人口に占める75歳以上人口の割合)	14.4% (5位)
ひとり暮らし高齢者人口	1,112人 (6位)
高齢者人口に占める割合	12.3% (10位)
在宅ねたきり高齢者人口	4人 (12位)
高齢者人口に占める割合	0.04% (12位)

※住民基本台帳、ひとり暮らし高齢者台帳、ねたきり高齢者台帳に基づく。

【要介護・要支援の認定の状況】 (2020年9月末現在)

要介護・要支援認定者数	1,544人 (5位)
高齢者人口に占める割合	17.1% (11位)
介護度3区別認定者数	
要支援1, 2	532人 [34.5%]
要介護1, 2	578人 [37.4%]
要介護3以上	434人 [28.1%]

【認知症の状況(介護保険認定調査の日常生活自立度による)】 (2020年9月末現在)

認知症があると推計される人数 888人 高齢者数に対する割合 9.9%

【医療に関する情報】

①在宅療養支援病院・診療所	3カ所
②要介護高齢者歯科診療所・在宅歯科診療対応医院	3カ所
③在宅医療受入可能薬局	5カ所
④訪問看護ステーション	3カ所

※①関東信越厚生局 神奈川事務局 ②藤沢市歯科医師会
③藤沢市薬剤師会 ④藤沢市訪問看護ステーション連絡協議会

【施設サービス】 (2020年10月1日現在)

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	1施設
介護老人保健施設	1施設

【地域密着型サービス】 (2020年10月1日現在)

認知症対応型通所介護	1施設
地域密着型通所介護	5施設
小規模多機能型居宅介護	2施設
認知症対応型共同生活介護	2施設

【主な地域コミュニティ活動・施設】 (2020年10月現在)

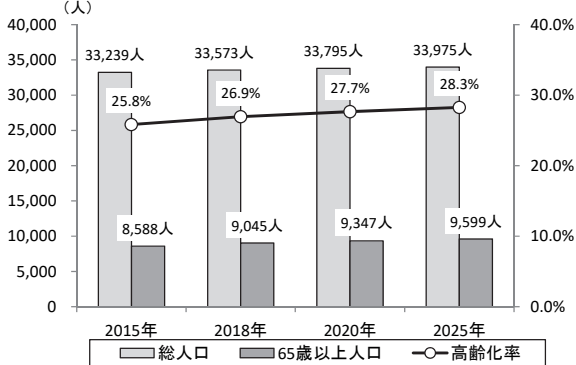
自治会・町内会	39
単位老人クラブ	14クラブ
地域ささえあいセンター	1施設
いきいきシニアセンター	1施設
地域の縁側	4施設
地域市民の家	4カ所
老人憩の家・老人ふれあいの家	1カ所
地区ボランティアセンター なごみ	

【介護予防に関する情報】

介護予防運動自主活動団体	8団体
--------------	-----

■今後の高齢化の見通し■

【高齢者人口と高齢化率の推移】

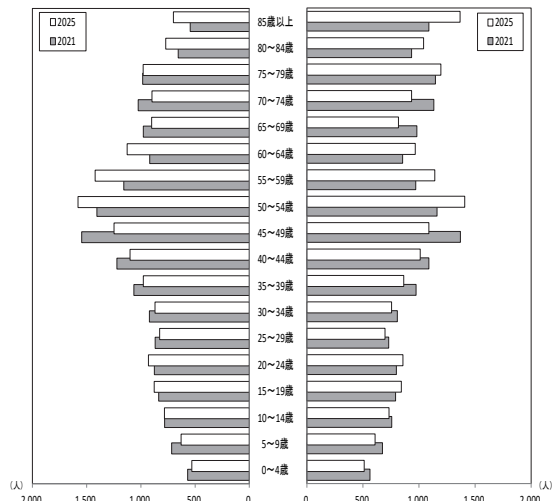


※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

(2018年(平成30年)から2025年(令和7年)の将来見込み)

- ・総人口 : 増加傾向 (+1.2%)
- ・高齢者人口 : 増加傾向 (+6.1%)
- ・高齢化率 : 増加傾向 (+1.4ポイント)

【人口構造の変化】



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

御所見地区



御所見地区は、農地が4割強を占めており、農業振興地域として、農業基盤整備を中心にまちづくりが進められてきました。自然が豊かな一方、南部地区と比較して、バスの路線があまり密ではないなどの不便さがあります。

■地区の現状■

【高齢者人口の状況】 (2020年10月1日現在)

総人口	17,951人 (12位)
高齢者人口	5,273人 (12位)
(うち、75歳以上人口)	2,825人 (12位)
高齢化率	29.4% (2位)
(総人口に占める75歳以上人口の割合)	15.7% (2位)
ひとり暮らし高齢者人口	564人 (12位)
高齢者人口に占める割合	10.7% (11位)
在宅ねたきり高齢者人口	7人 (7位)
高齢者人口に占める割合	0.13% (5位)

※住民基本台帳、ひとり暮らし高齢者台帳、ねたきり高齢者台帳に基づく。

【要介護・要支援の認定の状況】 (2020年9月末現在)

要介護・要支援認定者数	948人 (12位)
高齢者人口に占める割合	18.0% (8位)
介護度3区分別認定者数	
要支援1, 2	316人 [33.3%]
要介護1, 2	357人 [37.7%]
要介護3以上	275人 [29.0%]

【認知症の状況(介護保険認定調査の日常生活自立度による)】 (2020年9月末現在)

認知症があると推計される人数 541人 高齢者数に対する割合 10.3%

- 【医療に関する情報】
- ①在宅療養支援病院・診療所 4カ所
 - ②要介護高齢者歯科診療所・在宅歯科診療対応医院 2カ所
 - ③在宅医療受入可能薬局 1カ所
 - ④訪問看護ステーション 1カ所

※①関東信越厚生局 神奈川事務局 ②藤沢市歯科医師会
③藤沢市薬剤師会 ④藤沢市訪問看護ステーション連絡協議会

【施設サービス】 (2020年10月1日現在)

介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	3施設
介護老人保健施設	1施設

【地域密着型サービス】 (2020年10月1日現在)

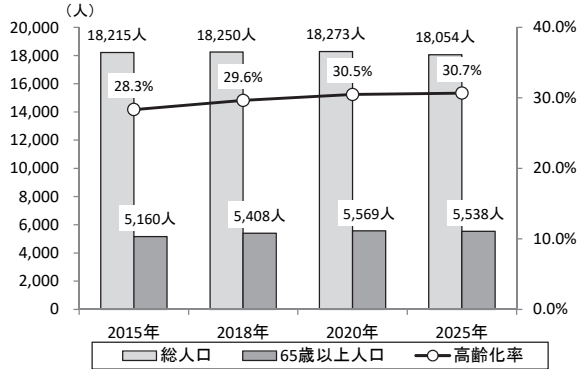
地域密着型通所介護	1施設
小規模多機能型居宅介護	1施設
認知症対応型共同生活介護	2施設
地域密着型特定施設入居者生活介護	2施設

【主な地域コミュニティ活動・施設】 (2020年10月現在)

自治会・町内会	13
単位老人クラブ	10クラブ
地域の縁側	2施設
高齢者の通いの場	1施設
地域市民の家	3カ所
老人憩の家・老人ふれあいの家	1カ所

■今後の高齢化の見通し■

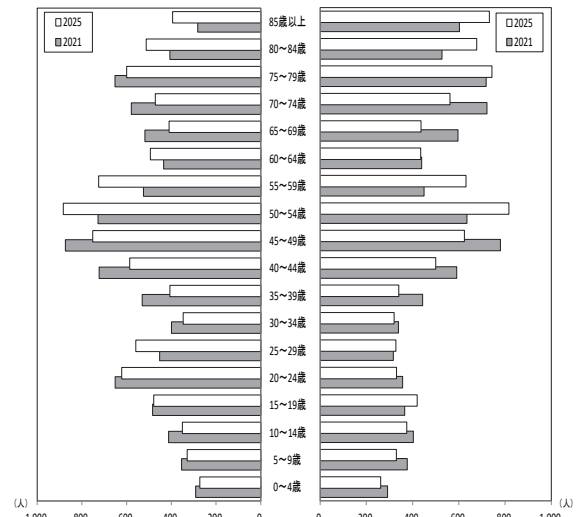
【高齢者人口と高齢化率の推移】



(2018年(平成30年)から2025年(令和7年)の将来見込み)

- ・総人口 : 減少傾向 (▲1.1%)
- ・高齢者人口 : 増加傾向 (+2.4%)
- ・高齢化率 : 増加傾向 (+1.1ポイント)

【人口構造の変化】



※平成29年度 藤沢市将来人口推計から引用。

4. 高齢者の生活を取り巻く課題と本市の状況

(1) 社会情勢等を踏まえた新たな課題

■高齢者の社会参加に対する期待

超高齢社会において、高齢者は「支えられる人」であるというこれまでの一般的な関係性から、意欲がある高齢者については、その社会参加を通じて高齢者の生活支援の担い手として自らが地域を「支える側」として活躍することが期待されています。

■健康寿命の延伸に向けた取組の必要性

健康寿命の延伸に向けては、高齢者対象の介護予防とともに、若い頃からの生活習慣病予防や健康づくりへの取組を意識して継続していくことが大切です。

また、高齢期においては、いきいきと活動する場としての地域活動への参加や多様な就業機会の確保なども求められています。

■自立支援・重度化防止に向けた取組の仕組みづくり

高齢者一人ひとりが、自立した生活を送ることや、たとえ要支援・要介護状態になっても、その状態をさらに悪化させないことは大変重要なことです。

高齢者自身が生活の中で、生きがいや目標を持ち、それに向けて持てる力を最大限に生かすことができるような支援が求められています。

■相談機能の強化・支援体制の充実

いきいきサポートセンター（地域包括支援センター）をはじめとする身近な相談機関と、各福祉分野の相談支援機関、市民活動団体等が相互に関りを持ち、当事者の意思、自己決定を尊重しながら、保健・医療、権利擁護、住まいなどについて、多機関・多職種が連携した包括的な相談支援体制を充実することが求められています。



(2) 前計画の取組状況における課題とアンケート調査による本市の状況

基本目標1 元気に暮らせる地域づくりの推進

高齢者の生きがいづくりの支援として、個人・団体を問わず趣味や教養などの向上に資する老人福祉センターの管理運営や老人クラブ活動への支援、社会参加への充実としてシルバー人材センターや地区ボランティアセンターへの活動支援などを継続的に行っています。

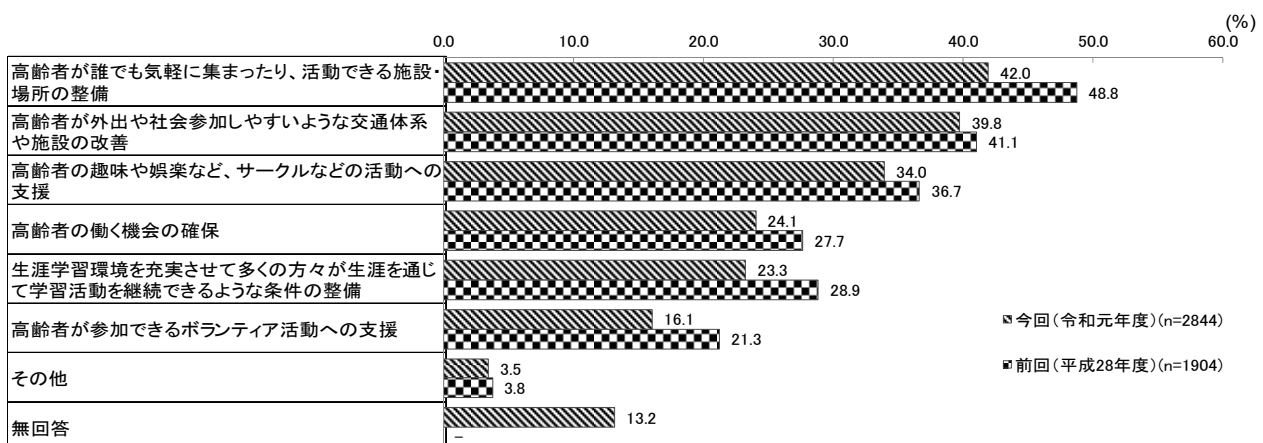
直近3年間の老人福祉センターの利用者数や老人クラブの参加者数については、現状維持または微減で推移していますが、アンケートの結果からは、高齢になっても夢や希望をもって活動したいと思う人が多くなり、高齢者等が集い交流する場があることは、いきいきと活動する高齢者の増加に効果があるものと考えています。

さらに、本市では前計画から『ヘルスケア・コミュニティーケア』（「地域活動など、積極的な社会参加は地域の活性化につながり、人とのかかわりが個人の健康にもつながる。」）の視点で、参加型の介護予防と、社会参加の場としての居場所づくりを進めてきました。地域では、誰もが気軽に立ち寄れる「地域の縁側」や、介護予防の講座をはじめボランティアに参加したい高齢者等を対象とした相談や講座を行っている「地域ささえあいセンター」への支援など、多様な主体による取組が行われています。

一方で、新型コロナウイルス感染症の蔓延により、気軽に集い交流することを制限しなければならない事態が生じています。新たな生活様式を踏まえた行動に移行することも必要になっています。

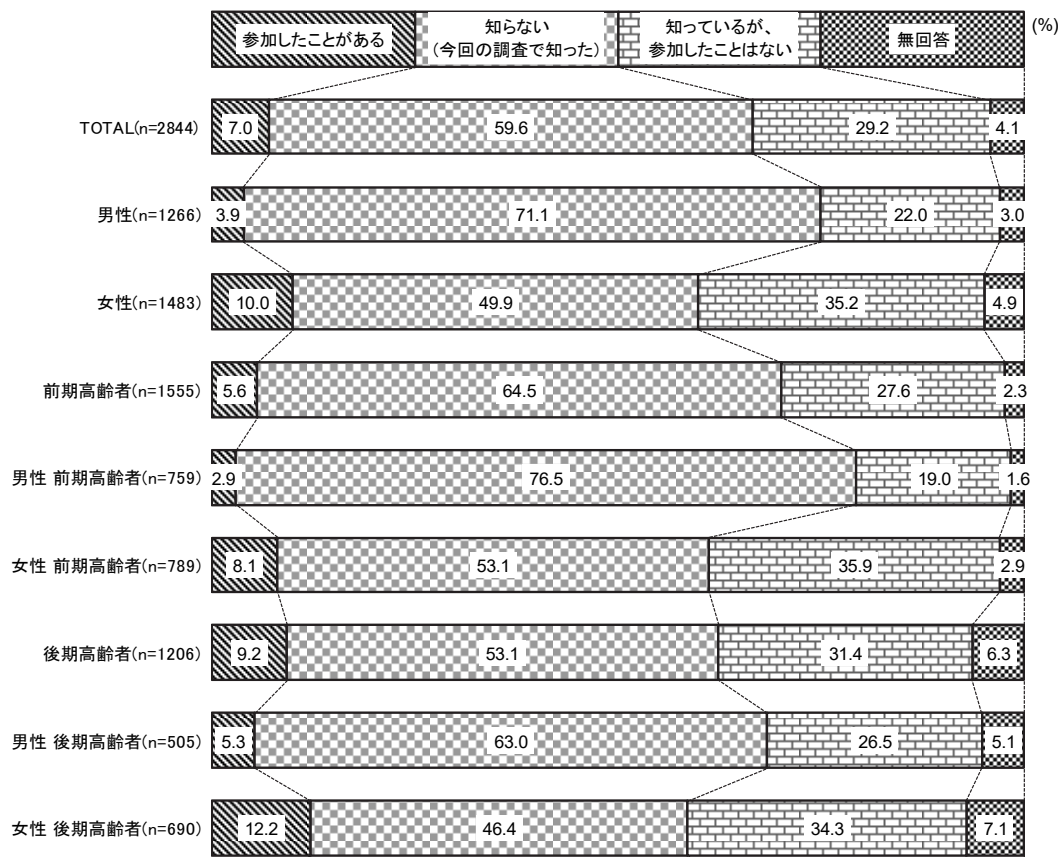
今後においても、高齢者の介護予防、フレイル予防に着目した高齢者の生きがいづくりにつながる居場所のほか、専門職が介護予防のプログラムを実施する場の提供、身近な地域で気軽に参加でき、地域でのお互いの見守りにもつながる公園体操の実施など、感染症の予防に注意しながら、様々な地域活動を充実させていく必要があります。

○「生きがいづくり・社会参加に必要な支援」

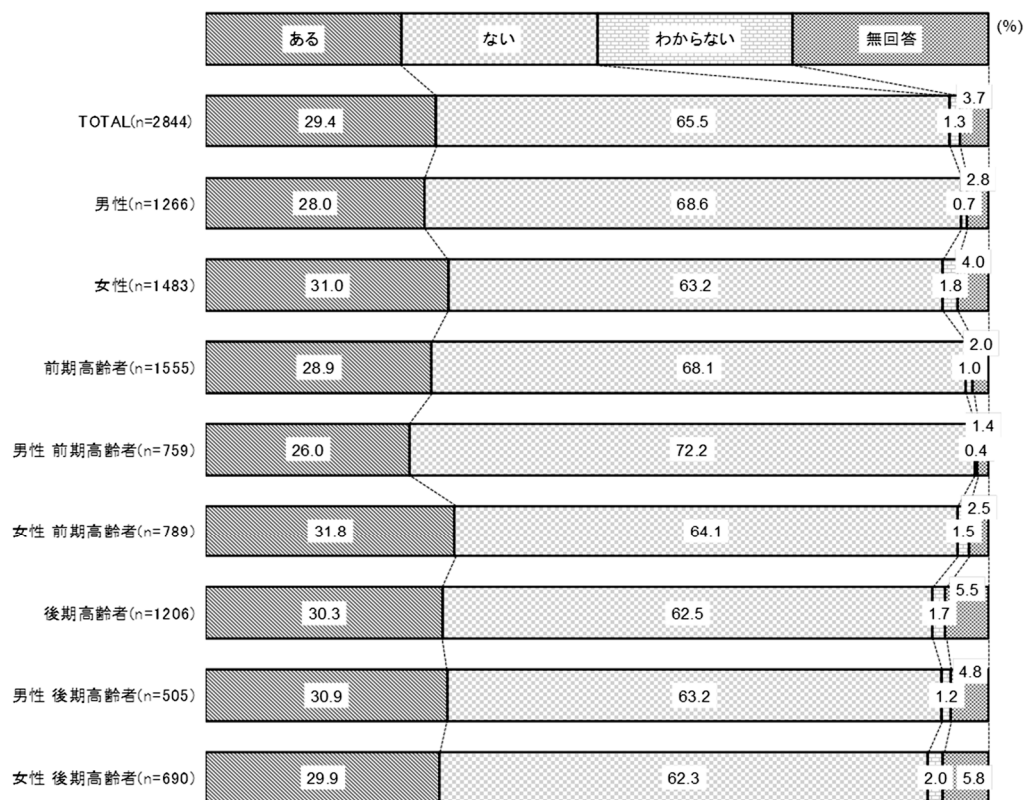


第2章 高齢者を取り巻く状況

○「介護予防実施の場の参加経験」



○「地域で参加している活動の有無」

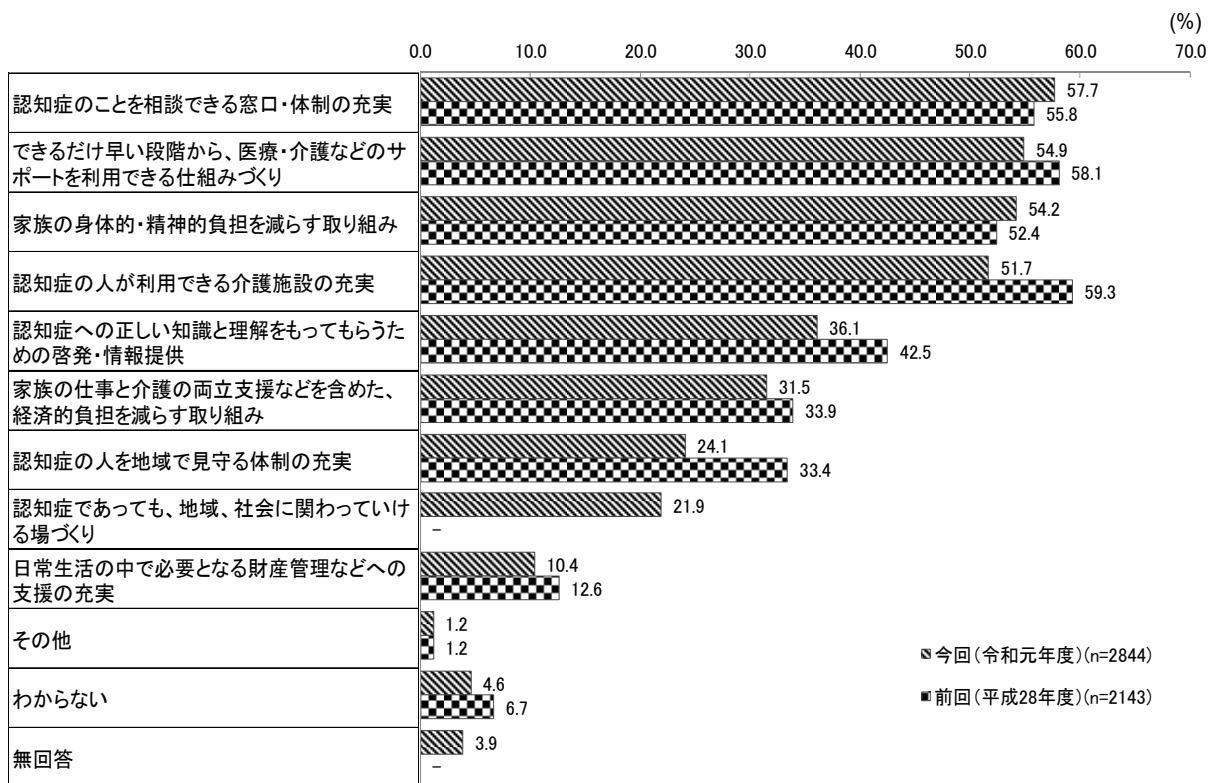


基本目標2 認知症施策の推進

認知症高齢者は、今後、高齢化の進展とともに、2025年（令和7年）には約700万人、65歳以上の高齢者の5人に1人まで達することが見込まれ、さらに65歳以上の高齢者人口がピークになると予想される2040年（令和22年）には、800万人から950万人の人が認知症になると推計されています。

認知症は、特別な疾患ではなく、加齢とともに誰にでも起こりうる問題です。認知症を自分事として捉え、認知症高齢者とその家族が孤立しない地域づくりが必要です。

○「市が重点を置くべき認知症施策」



【藤沢おれんじプラン】

本市の認知症施策は、2019年（平成31年）4月に作成した「藤沢おれんじプラン」に基づき、令和5年度までの目標として「知る」「集う」「支える」をキーワードに、認知症になっても本人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で暮らし続けていくために、地域、医療・保健・福祉の専門職、民間企業等多様な主体の人と連携し、認知症の普及啓発事業や、認知症本人、その家族への支援を実施しています。

また3つのキーワードに加えて、誰もがなり得ることから認知症に「備える」という概念の普及啓発をACPの啓発と共に進めています。

今後も増加する認知症高齢者に対する支援として、認知症本人の視点に立ち、幅広い世代に対して認知症の正しい知識の普及啓発を図るとともに、認知症本人やその家族を地域で支える体制づくり、早期発見・早期対応に向けた支援体制の充実、認知症本人、家族の思いが尊重され、本人の状態に応じた支援が受けられるよう支援者の対応力の向上、認知症予防の取組を、多様な主体とともに協働して推進していくことが重要です。

【認知症施策推進大綱】

国は、2019年（令和元年）6月18日に「認知症施策推進大綱」を認知症施策推進関係閣僚会議にて取りまとめました。

認知症の人を単に支えられる側と考えるのではなく、認知症の人が認知症とともによりよく生きていくことが、できるような環境整備が必要です。

2025年（令和7年）に向け、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現をめざします。

大綱の基本的な考え方は、認知症の発症を遅らせ、認知症になっても希望をもって日常生活を過ごせる社会をめざし、認知症本人や家族の視点を重視しながら、「共生」と「予防」を車の両輪として施策を推進するものです。

「共生」とは、認知症本人が、尊厳と希望をもって認知症と共に生きる、また、認知症があってもなくても同じ社会で共に生きることであり、「予防」は、認知症にならないという意味ではなく、認知症になるのを遅らせる、または認知症になっても進行を緩やかにするという意味です。

本大綱は、以下の5つの柱に沿って施策を推進し、これらの施策は認知症の人の視点に立ち、認知症の人やその家族の意見を踏まえて推進することを基本としています。

～5つの柱～

- ①普及啓発・本人発信支援
- ②予防
- ③医療・ケア・介護サービス・介護者への支援
- ④認知症バリアフリーの推進・若年性認知症の人への支援・社会参加支援
- ⑤研究開発・産業促進・国際展開

基本目標3 医療・介護及び福祉の連携による在宅生活支援の推進

高齢者が住み慣れた地域で、できる限り在宅生活が継続できるよう、医療・介護及び福祉の連携による支援体制づくりをすすめてきました。

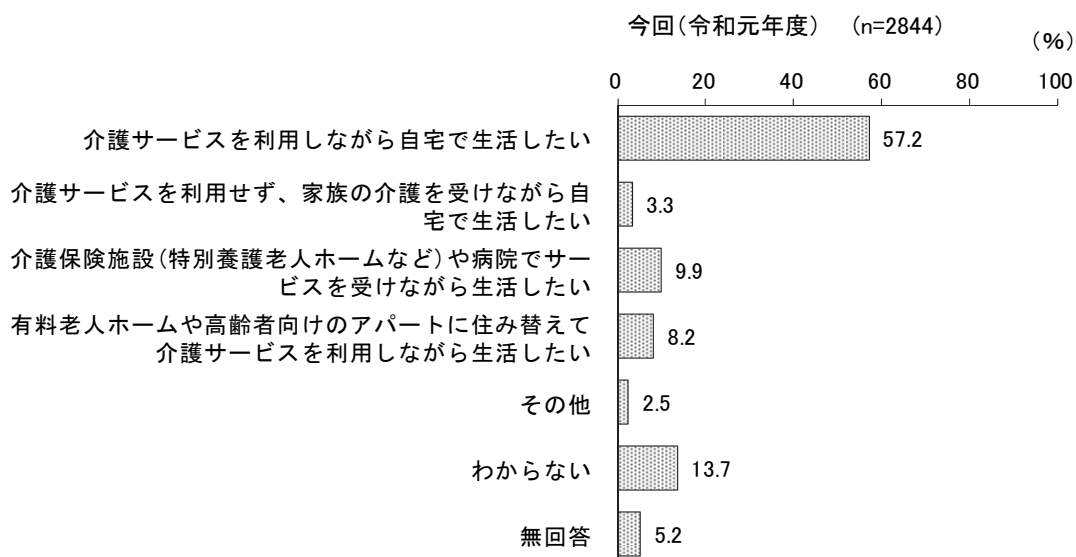
在宅医療支援センターは、医師やケアマネジャー等の医療・介護関係者からの在宅医療に関する相談を受け付け、病院とかかりつけ医や介護関係者等を結びつけるコーディネート役となり、在宅医療・介護連携を推進するための拠点となっています。

また、医療・介護及び福祉関係者が参加する多職種研修会や地区別懇談会の実施、かかりつけの医療機関をもつことや看取りなどの市民への普及啓発として出前講座を行いました。

今後も、高齢化が進展し、医療と介護の両方のニーズを必要とする高齢者の増加が予想されることから、在宅医療支援センターを中心に、医療・介護及び福祉の関係者と連携しながら、切れ目のない在宅医療・介護連携を推進する必要があります。

地域がめざす姿を住民や医療・介護及び福祉の関係者と共有をしながら、高齢者の地域での日常生活を支援していきます。

○「要介護認定を受けた時の生活についての希望」



基本目標4 介護保険サービスの充実

超高齢社会を踏まえ、介護保険サービスの充実を図る必要から、特別養護老人ホームや地域密着型サービス事業所の整備を進めるとともに、慢性的に不足している介護人材の量的・質的確保に向けた事業所等の支援に努めてきました。

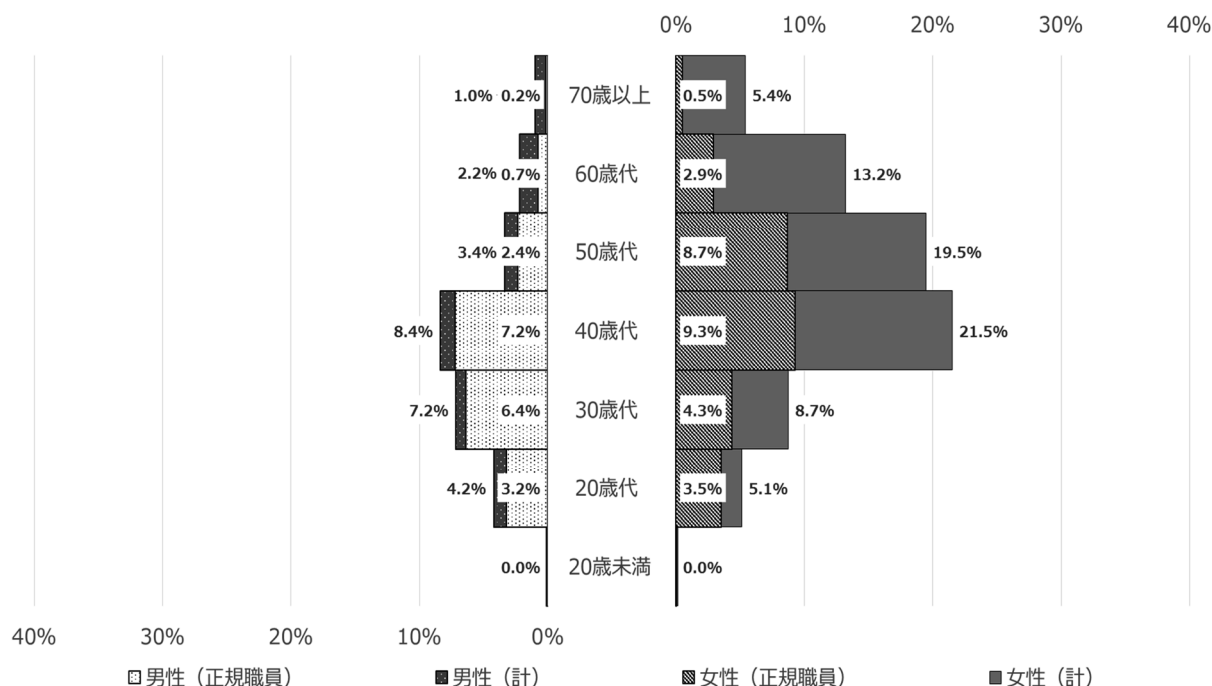
また、2018年（平成30年）4月から居宅介護支援事業者の指定及び指導・監査権限が県より移譲されたことなどから、実地指導やケアプラン点検の強化など、適切なサービス提供につなげる取組を進めています。

今後の2025年（令和7年）、高齢者数のピークを迎える2040年（令和22年）を見据えると、現役世代人口の急減に影響される介護保険制度の持続可能性が大きな課題の一つです。介護離職の防止や介護給付費等の適正化のほか、介護現場における担い手の確保と生産性の向上が重要となります。例えば、介護ロボットの利用推進やICT（情報通信技術）の活用による事務作業の省力化、情報収集の共有化を平易にすることで、介護職員によるケアの充実が図られる環境をつくっていくことが大事と言えます。

そして、新型コロナウイルス感染症の蔓延による新たな課題への取組が求められ、これまでの通常の介護サービス提供が困難な状況等になる中、感染拡大の防止を含めた適切なケアが求められています。

また、安全で安心なサービス提供を継続するための感染予防の取組とともに、近年の異常気象による風水害などの災害対応を含めた非常時における支援のあり方も求められています。

○「介護職員の性別・年齢別 雇用形態 構成比」



基本目標5 安心して住み続けられる生活環境の整備

高齢者が地域で安心して暮らし続けられるよう、住まいなどの生活環境整備や安全・安心なまちづくりの推進を図っています。

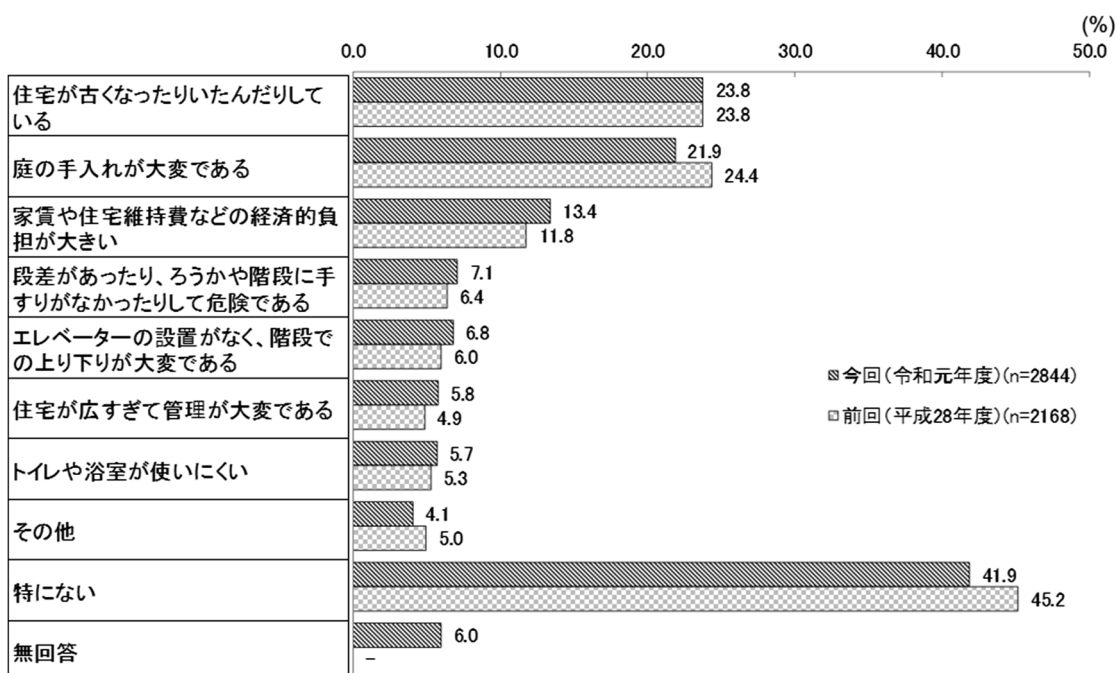
生活環境の面からは、高齢化の進展に伴い、居住環境においては、特に低所得者、単身高齢者等の賃貸住宅への円滑な入居の問題、高齢者の運転免許証自主返納の増加においては、外出・移動支援への対応、独居高齢者の増加においては、社会的孤立を防ぐ対策など、それぞれに課題が顕在化しています。

アンケートの結果からは、住まいの困りごとについて、『維持管理や家賃など』を困りごととして感じている人が約52%となり、前回より増加しています。このほか、外出時の移動方法において、自家用車が減少していると同時に免許証を返納する人が増加しています。買い物サービスの提供について、『特に必要としない』と回答された人が、前回調査では57%以上であったのに対し、今回は11%と大幅に減少し、宅配・配達などのサービスを求める人が増加しています。

国においては、低所得者、単身高齢者、障がい者等の要配慮者が賃貸住宅に入居しやすくなるよう、空き家等を活用した新たな登録制度を創設し、相談や見守り、家賃保証などの支援措置を講じる住宅セーフティネットの機能強化を図っています。

本市としても、このような国の動向を注視しながら、高齢者の生活環境やニーズに応じた多様な住まいの確保支援について住宅施策と連携した居住環境づくりを進めるとともに、地域住民と連携しながら移動支援の具体的な検討や、社会的孤立の防止、防災・防犯などの様々な取組を進め、安全で安心なまちづくりを推進していく必要があります。

○「住まいについて困っていること」



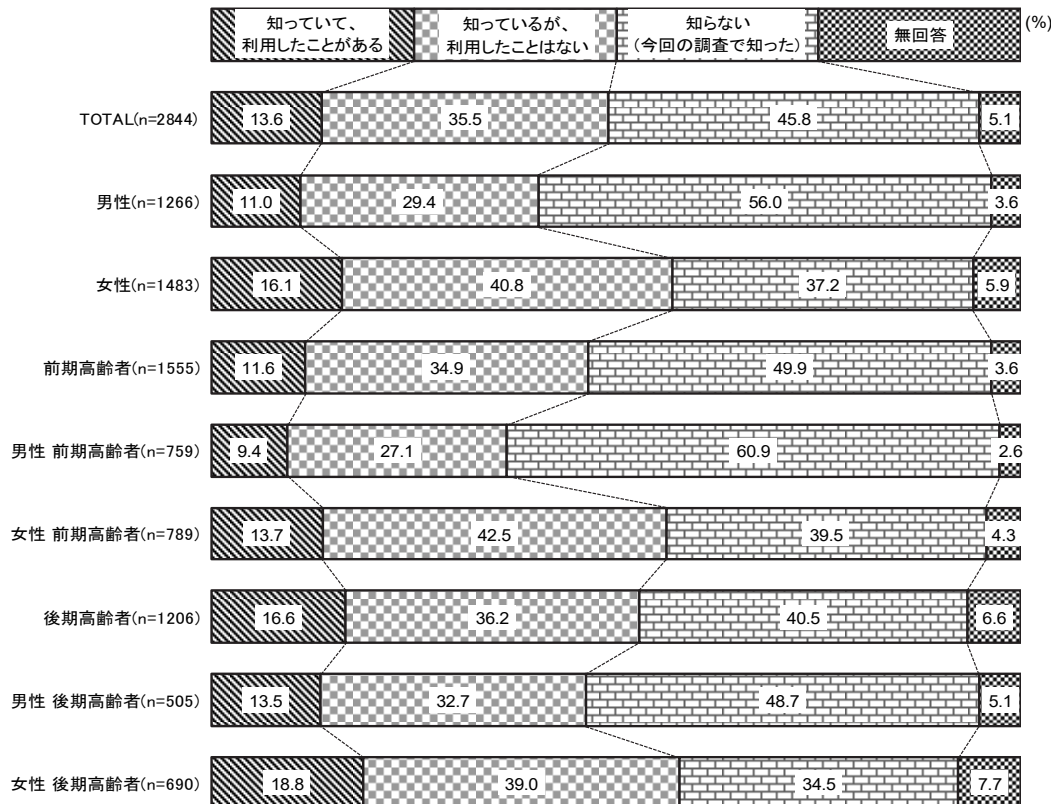
基本目標6 地域に根ざした相談支援の推進

高齢者が住み慣れた地域で、自分らしくいつまでも安心して生活ができるよう、様々な困りごとを相談できる地域の拠点として「いきいきサポートセンター（地域包括支援センター）」を各地区に配置してきました。平成30年度には、藤沢・鶴沼・辻堂地区と同様に高齢者人口が多い湘南大庭地区及び善行地区の2地区にサテライト型センター（分室）を新たに設置しました。さらに、令和元年度に完成した善行市民センターの建て替えにおいては、いきいきサポートセンターを市民センター内に移転し機能強化を図ってきました。

また、生活困窮者自立支援法に基づく相談窓口として、市役所には「バックアップふじさわ」を、藤沢市社会福祉協議会への委託により「バックアップふじさわ社協」を整備するとともに、委託の相談支援員と生活支援コーディネーターを兼務するコミュニティソーシャルワーカー（CSW）として13地区に配置しました。

そのほか、地域住民が主体となり、誰もが気軽に立ち寄れる「地域の縁側」「地域ささえあいセンター」を整備し、行政だけではなく地域の活動団体との連携・協働を視野に置き、様々な関係機関が顔の見える関係づくりと、包括的な支援へとつながる相談支援体制づくりを進めてきました。

○「地域包括支援センターの認知度」



基本目標7 新たな地域生活課題の把握と対応

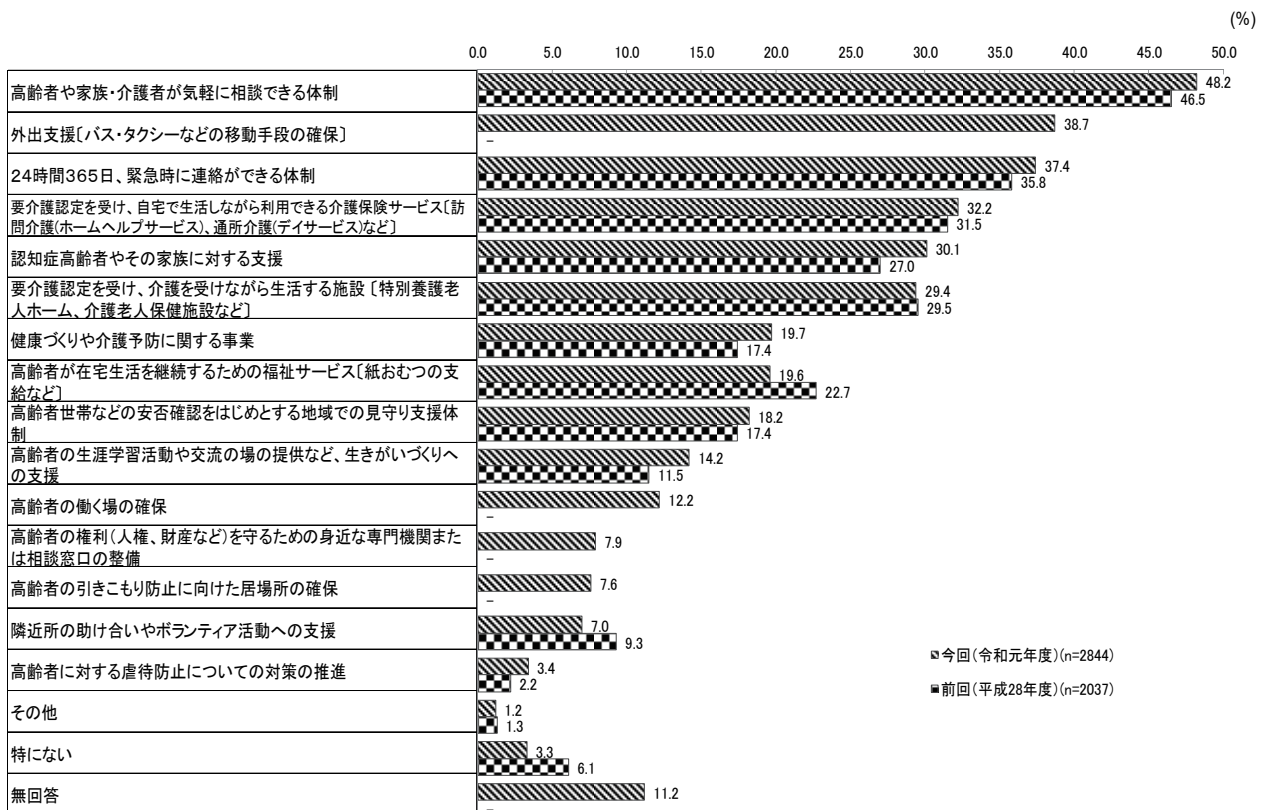
藤沢型地域包括ケアシステムの推進にあたっては、高齢者が地域で安心して暮らし続けられるよう、藤沢型地域包括ケアシステムの推進に向けた会議体を設置し、2017年（平成29年）に設定した6つの重点テーマに沿った取組について、相互に連携を図りながら進めてきました。

また、会議においては、6つの重点テーマの短期目標に関連する個別事業を取り上げた意見交換を行うなどにより、それぞれの立場で抱えている課題や特徴ある取組について、共有化を図りました。

6つの重点テーマによる取組の一例として「地域の相談支援体制づくり」では、地域の総合的な相談支援拠点としての市民センター・公民館の相談機能等の充実を図るとともに、全地区に生活支援コーディネーターを配置し、相談機能の連携・向上に努めてきました。同様に、「地域活動の支援・担い手の育成」「健康づくり・生きがいづくり」など、健康寿命日本一に向けた取組を推進するなど、地域生活課題に応じた事業を進めてきました。

これらの取組をさらに深化・推進するため、今後は13地区の関係団体を中心に、個々にヒアリング等を行い、団体や地域課題の把握や今後の地域包括ケアシステムの推進に向けた取組へとつなげていく必要があります。

○「今後優先すべき施策（サービスや事業など）」



(3) 本計画で取り組むべき重点的事項

前計画「いきいき長寿プランふじさわ 2020」の取り組むべき重点的事項は、地域包括ケアシステムの深化・推進を掲げ進めてきました。

本計画では、地域包括ケアシステムを更に広げ、地域共生社会の実現を図るため、地域住民の複雑化・複合化した支援ニーズに対応する包括的な福祉サービスなどの提供に向けた取組を進める必要があります。

そのため、前計画の取り組むべき重点的事項を継続課題として継承するとともに、地域共生社会の実現のための社会福祉法等の一部改正に対応する取組を、本計画の基本目標として位置づけることで、引き続き、重点的に取り組んでいきます。

